

報告にあたって

聖学院大学では 2000 年度から始まった入試改革の中で AO 入試を導入しました。従来の学力偏重の入試から受験生の意欲、人間性、将来の夢などを面談と課題を通じて引き出すという画期的な入試制度でした。他の入試方式も「選抜するのではなく受験生の可能性を見出す入試」という理念で入試改革を断行したのです。この入試改革は個性豊かで伸びる可能性を秘めた多様な学生を受け入れることで大学をより個性豊かなものにするという狙いをもっていました。

しかしながら、学力面で不安を抱える学生や多様な学習歴の学生を受け入れるにあたり大学での学びに必要なリテラシーを身に付けてもらって入学させる「導入教育」は入試改革と表裏をなすものとして重要な課題でした。

そこで本学では入学までの学力を確認し、4 年間の目標を定める仕組みとして 11 日間の通学制による入学前準備教育（現、入学前スタートアップ講座）を取り入れました。

まず「国語表現力」「基礎英語」「基礎数学」の授業を通じて「学習意欲」「学習習慣」「基礎学力」を確認していきます。長年、本学で入学前準備教育を担当する講師が講義を通じて大学で学ぶことの意義や身に付けるべき学力、学び方などを自らの体験を通じて伝えます。オリジナルの教科書とライブ講義を通じて学ぶ喜び、成長の喜びを学生にぶつけていきますので面白い授業が展開されます。また課題の演習や発表、質問の時間をできるだけとり、入学後に展開される大学の双方向の講義スタイルに慣れてもらいます。

この入学前の段階で高校での学びから大学での学びの転換は、大学での学びについていけるか不安を持っている学生には有効であるようです。またこの期間にラーニングセンター、ラーニングコモンズ、図書館、食堂などの大学の施設やセンターの活用の仕方を在学生のスタッフが紹介していきます。

入学前準備教育ならではの仕組みとして学部学科を越えたクラス編成があります。入学すると学部学科での活動が多くなりますので、あえて入学前準備教育では学部学科をばらばらにしてクラスを編成し、できるだけ多くの学生と交わり友だちになれる工夫をしています。先輩がスタッフとなりいろいろなコミュニケーションの工夫をしています。放課後を利用して先輩との話し合いの時間を設けて学生生活や資格取得のアドバイスを行います。

このようにこれまで14年間、一貫して自由参加、受益者負担、通学制にこだわり入学前準備教育を組み立ててきました。今では多くのメディアに取り上げられるまでになりました。

特に全国でも珍しい11日間という長い期間で実施してきましたが、次のステージに行く時が来ているようです。開始した当初は、大学が、高校教育が行われている中に入り込むことへの警戒観があったのですが、近年はむしろ推薦入試やAO入試など年内に進学が決まった生徒に対する入学前の導入教育を求める声が高まっています。本学では2、3月に行われる入学前スタートアップ講座の他に学科ごとに課題を出しレポートを添削する形式での準備教育も同時に進めてきましたが、今年度は新しい形のものがスタートします。ご期待ください。

2014年6月

聖学院大学 広報部（入学前スタートアップ講座担当）

目次

講座案内		
合格者へ送付した案内		3
実施要領		5
楽しく英語講座案内		9
受講者データ		
受講生データ		1 2
ラーニングセンターアンケート		1 3
各教科データ		1 4
クロージングアンケート結果		1 6
スペシャル・プログラム報告		
NHK 仕事ハッケン伝講演会 報告		2 1
NPO「カタリバ」 報告		2 3
プレゼンテーション例		2 7
就活 NewsNavi 報告		2 9
実施の総括・実作例		
講師紹介		3 4
基礎英語		3 5
基礎数学完成		4 1
文系国語表現力基礎		4 4
小論文実作・添削例		5 1
参考資料		
楽しく英語講座 報告		5 6
掲載記事		6 5

入学前スタートアップ講座を振り返って



1

講座案内

1. 合格者へ送付した案内

2. 実施要領

3. 楽しく英語講座案内



2



3



4



5

1. 授業を聞く受講生
2. NHK 仕事ハッケン伝 講演会
4. NPO カタリバによるスペシャル・プログラム

3. 先生からのアドバイスを受ける受講生
5. 就活 News Navi 登録の様子

合格者のみなさまへ

入学前スタートアップ講座のご案内

聖学院大学
基礎総合教育部長代行
松本 祐子

あけましておめでとうございます。寒さが厳しいこの頃ですが、お元気でお過ごしでしょうか？
このたびは、聖学院大学合格おめでとうございます。春からは大学生ですね。みなさんの本学で
のご活躍に大いに期待しています。

大学は視野を広げ、思考力を深め、人格を磨くことのできる場所です。大学で「どれほど深く
考え、何をしたか」ということが、これからの人生を大きく左右することになります。大学合格
そのものをゴールととらえ、その後の 4 年間を無為に過ごしてしまっは、結局、何も得ること
はできません。明確な目的意識と意欲をもって有意義な大学生活を送ってほしいというのが我々
の切なる願いです。大学での学習効果を高めるためにも、資格取得や就職準備のためにも、高校
までに身につけておくべき学力の土台がしっかりしていることが大切です。

聖学院大学は 13 年連続で、全国の高校の進路指導の先生が選ぶ「面倒見のよい大学」に選ばれ
ました（詳細は裏面）。この入学前スタートアップ講座も、本学の面倒見のよさがあらわれたもの
で、大学の講義をスムーズに受講できるように、基礎知識を身につけるためのものです。これか
らたくさん書くことになるレポート・論文の作成能力を高める「国語表現力」、大学での講義やパ
ソコン・インターネット利用に必要な「英語基礎」、「数学基礎」など、大学のみならず、就職試
験、さらには実社会に出てからも役立つものばかりです。

この講座は 2001 年度入学生から実施して毎年改良を重ね、14 年目になります（昨年までは「入
学前準備教育」という名称でした）。高校や大学、予備校などでの指導経験が豊富な先生が担当し、受
講生の方からは「面白い授業で、教科のイメージが変わった」「わかりやすく役に立った」などの
感想をいただいています。また 90 分授業や大学の環境に慣れ、学科を越えた友人が早くできるの
も、もう一つのメリットです。

なお、この件についての詳細は、改めて電話でご説明させていただきます。

保護者の方へ

「入学前スタートアップ講座」は、大学で学んでいくための基礎学力を確認し、補うための特
別な授業です。大学で学習意欲を高め、授業のほか就職活動の際に必要な一定の学力を身に
つけることを目的としています。本来、高校までに修得しておくべき教育内容を本学と予備校が
共同で研究し、作り上げたオリジナルの教育プログラムです。

実施は今年で 14 年目となりますが、毎年、受講生
は入学後、確実に成績が伸びています。また入学前に
キャンパスに親しみ、友だちができ、4 月から不安な
く大学生活が始められるというメリットもあります。
このような教育は「リメディアル教育」と呼ばれ、い
くつかの大学で始まっていますが、聖学院大学の取組
みは、全国に先駆けて行ったもので、内容も高く評価
され、2012 年は朝日新聞、2013 年には読売新聞等で、
取り組みが紹介されました。

「面倒見のよい大学」としては、朝日新聞、サンデ
ー毎日、週刊ダイヤモンドにて、ランクインまたは記
事で紹介されています（右記事参照）

なお受講は強制ではなく希望者のみとなっておりますが、大学の学びへの準備、または就職にもつなが
る基礎知識となりますので、受講をお勧めします。費
用につきましては、受益者が負担するという原則で設
定されていますが、費用の半額を大学が補助しており
ます。

表1 面倒見が良い大学

順位	設置	大学名	所在地	ポイント
1	◎	金沢工業大	石川	364
2	△	東北大	宮城	126
3	◎	武蔵大	東京	121
4		国際教養大	秋田	111
5	◎	立命館大	京都	54
6	◎	聖学院大	埼玉	51
7	◎	明治大	東京	43
8	◎	昭和女子大	東京	42
	◎	名古屋商科大	愛知	42
10	◎	成蹊大	東京	37
11	◎	近畿大	大阪	34
	◎	中村学園大	福岡	34
	◎	福岡工業大	福岡	34
14	◎	成城大	東京	33
15		高知工科大	高知	32
16	◎	国際基督教大	東京	30
	◎	明治学院大	東京	30
18	◎	中央大	東京	29
19	◎	日本大	東京	26
20	◎	聖徳大	千葉	25
	◎	立命館アジア太平洋大	大分	25
22	△	九州工業大	福岡	24
23	◎	上智大	東京	23
24	△	大阪大	大阪	22
	◎	東京理科大	東京	22
26	△	東京大	東京	21
		秋田県立大	秋田	21
	◎	産業能率大	東京	21
	◎	関西大	大阪	21
30	△	新潟大	新潟	20
	◎	立教大	東京	20

△は国立、無印は公立、◎は私立を表す

サンデー毎日(2013/9/15 号)
進路指導教諭が勧める大学より

2014年聖学院大学 入学前スタートアップ講座

(「入学前準備教育」から名称を変更しました)
実施要領

目次		
1	カリキュラム内容	基礎英語
		文系国語表現力基礎
		基礎数学完成
2	その他特別プログラム	
3	時間割	
4	費用	
5	申込み方法	
6	通学について	
	「楽しく英語講座 English Time」のお知らせ	

2月講座【対象：推薦入試、AO入試、スポーツ推薦入試入学手続者】

内 容 基礎英語、文系国語表現力基礎、基礎数学完成
期 間 2月5日（水）～7日（金）、10日（月）、12日（水）、13日（木）、
17日（月）～21日（金） 11日間
受講料 20,000円

3月講座【対象：推薦入試、AO入試、自己推薦入試、一般入試A・B、スポーツ推薦入試入学手続者】

内 容 基礎英語、文系国語表現力基礎、基礎数学完成
期 間 3月4日（火）～7日（金）、10日（月）、11日（火）、
13日（木）、14日（金）、17日（月）～19日（水） 11日間
受講料 20,000円

楽しく英語講座 English Time

【対象：推薦入試、AO入試、スポーツ推薦入試、一般入試A日程入学手続者】
期 間 2月24日（月）～28日（金） 5日間
定 員 50名
受講料 10,000円

※1：講座の対象入試は目安ですが、やむを得ない都合がある場合、変更は可能です。
※2：楽しく英語講座は、4月からの英語のクラスに慣れ親しむことを目的とした講座です。詳細は別紙をご覧ください。

1. カリキュラム内容

*カリキュラム内容は若干変更になることがあります。

(1) 基礎英語

- a. 内容
基本文法、リスニング基礎、講読ベーシック
ノート
- b. 回数
全8講
- c. カリキュラム

第1章	大学生にとっての英語
第2章	英語 基本文法の確認
第3章	英語の音声
第4章	英語 段落構成 一まとまった文にチャレンジ

(2) 文系国語表現力の基礎

- a. 内容
文系作文、レポートの書き方基礎、小論文添削
- b. 回数
全8講
- c. カリキュラム

1. 伝え方、考え方の基本	5. 社会問題を考える
2. 小論文の型1 原因追求型	6. 大学で学びたいこと
3. 小論文の型2 功罪指摘型	7. 平等と優先順位を考える
4. 小論文の型3 要約 「日本人を考える」	8. 他人の作品に意見を言おう

* 記載されているカリキュラムは平均的なものであり、実際は一人一人の進度によって
多少違いが出ます。

(3) 基礎数学完成

- a. 内容
文系で必要とされる数学基礎、就職試験で
必要となる数学など
- b. 回数
全8講



c. カリキュラム内容

1. 円	5. 確率
2. 平行線と角	6. 三角形の性質
3. 立体のいろいろな見方	7. 速さ
4. 立方体の展開図	8. 濃度

2. その他特別プログラム

(1) 初日特別プログラム 2月5日／3月4日

11 日間一緒に受講する友だちと、簡単なゲームなどを通して、知り合うための初日特別プログラムを行います。

2月5日は、午前はNHKの仕事ハッケン伝講演会、午後は自己紹介プログラムで盛り上がります。3月5日は、NPOカタリバのキャストと一緒に、1日じっくり、将来のことを考え、語り合うプログラムを行います。NPOカタリバは、親や先生など大人との関係でもなく同年代の友だちやクラスメートとの関係でもない、いわば「ナナメの関係」である少し先輩の大学生たちが主体的に活動している団体です。

どちらのプログラムも、学生スタッフがリードしますので、リラックスして参加してください。友だちができることで、入学後も安心して、授業や課外活動にも、取り組みます。学生スタッフも一緒になって参加、あっという間に時間が過ぎます。

(2) プレゼンテーション

これまでの入学前教育を振り返りつつ、今後の学生生活でどのようなことにトライしてみたいかなどを各自まとめ（準備）、一人ずつ発表（プレゼンテーション）をします（実施）。自分の考えをまとめて皆の前で「話す」という練習にもなります。

※1 初日特別プログラムは、「スペシャル・プログラム報告」ページを参照。

※2 今年度より、受講生のへの個別面談の代わりに、放課後に 2 回程度複数学生スタッフと希望する受講生との交流会を持つことにした。

3. 時間割

下記は時間割の一例です。（2月、3月講座）

初日に教室やクラスをお知らせします。クラスにより授業の順番が変わりますが内容は同じです。クラスは、いろいろな学科の人たちと知りあいになれるように考慮して決めます。

注）プレゼン＝プレゼンテーション（発表）

2月	3月	1 限	2 限	昼休み	3 限	4 限
		9:00～9:50	10:00～11:30	11:30～12:30	12:30～14:00	14:10～15:40
5	4	オリエンテーション ラーニングコモンズ アンケート	特別プログラム	昼食	特別プログラム	
2月	3月	1 限	2 限	昼休み	3 限	
		9:00～10:30	10:40～12:10	12:10～13:10	13:10～14:40	
6	5	文系国語	基礎数学完成	自習／面談／ 昼食	基礎英語	
7	6	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
10	7	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
12	10	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
13	11	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
17	13	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
18	14	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
19	17	文系国語	基礎数学完成		基礎英語	
20	18	文系国語	プレゼン説明		プレゼン準備	
21	19	テスト	プレゼン実施 1		プレゼン実施 2	14:10～15:00
						クロージング

4. 費用

講座名	金額	支払い期間
英数国講座（2月／3月）	20,000 円	（2月講座）～2/5 まで（3月講座）～3/4
楽しく英語講座 English Time	10,000 円	～2/25 まで
英数国講座、楽しく英語講座	30,000 円	上記に順ずる

楽しく英語講座 English Time 開講のお知らせ

聖学院大学合格、おめでとうございます。

毎年、聖学院大学では、新入生を対象として、入学前に「楽しく英語講座」を開催し、英語学習を通して大学での学びの準備のお手伝いをしています。この「楽しく英語講座」では、高校で学んだ基礎英語をさらにステップアップし、実際の日常生活の英語を実践します。詳しくは講座内容をご覧ください。この講座は任意参加のプログラムですが、積極的な参加をお待ちしています。

1) 開講日：【5日間】2014年2月24(月)、25(火)、26(水)、27日(木)、28日(金)

2) 場所： 聖学院大学

3) 講座内容

4月から聖学院大学で勉強をする英語のクラスに、慣れ親しむことを目的とした講座です。

時間割： 1限： 10:00～11:00

2限： 11:10～12:10



クラスの様子

●プログラム

このクラスは、4月から聖学院大学で勉強をする英語のクラスに慣れ親しむことを目的としています。講座では、サンプル・レッスンをもとに、アクティビティーを取り入れて、課題に取り組みます。

1日目	「クラスメイトを知ろう!」コミュニケーション方法 Get to know everyone better. Communication strategies
2日目	「サバイバル英語」 海外旅行で必要最低限の英語を学ぶ Survival English. Survival skills while traveling abroad
3日目	「English through Songs」 英語でアーティストや歌について学ぶ English through Songs. Learn about artists and songs using English
4日目	「英語で楽しく」 楽しいアクティビティーで、英語を上達させる Fun with English. Improve your English through fun activities
5日目	「自然にコミュニケーション」 友達やクラスメイトと英語を楽しく話す Communicate naturally: Enjoy speaking English with friends and classmates

4) 受講料： 10,000 円 振込方法は 2014 年聖学院大学 入学前スタートアップ講座
実施要項「費用」のページを参照ください。

5) 申込方法：別添申込書にて必要事項をご記入の上、同封の封筒または FAX で送付ください。
HP でも申込みできます。申込書受領後、受講証をお送りします。

6) 定員： 50 名

7) 申込締切： 2014 年 2 月 21 日 (金)

8) お問合せ先：聖学院大学 広報戦略室 (入学前スタートアップ講座担当)

TEL : 048-780-1707 E-mail : jizen@seig.ac.jp

受講生データ

1. 受講生データ

2. ラーニングセンターアンケート

3. 各教科データ

4. クロージングアンケート結果

1. 2014年受講生データ

(1)試験別受講者数・実受講者数・受講率

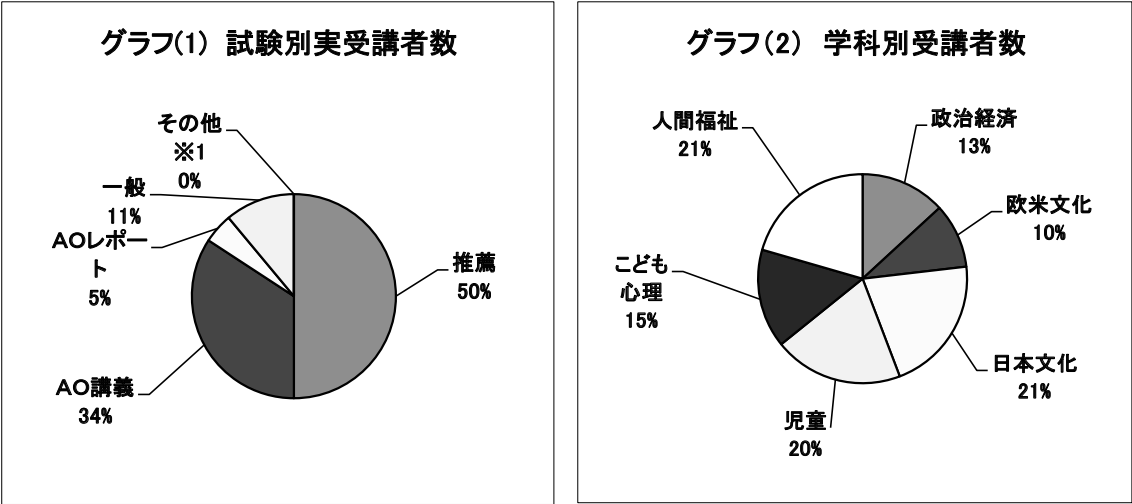
	英数国			楽しく英語	実受講者数	受講対象者	受講率
	2月	3月	小計				
推薦	40	50	90	21	95	213	44.6%
AO講義	30	28	58	17	65	120	54.2%
AOレポート	5	3	8	3	9	12	75.0%
一般		21	21	2	21	77	27.3%
その他※1	0	0	0	0	0	3	0.0%
計	75	102	177	43	190	425	44.7%
2013年	99	99	198	37	207 ※2	438	47.3%

※1 その他は、自己推薦、AO英語特別入試など
※2 2013年実受講者数は「楽しく英語講座English Time」と「ステップアップ英語」を合計した人数。
2014年は「楽しく英語講座English Time」のみを開催した。

(2)学科別受講者数・実受講者数・受講率

学科	英数国			楽しく英語	実受講者数	受講対象者	受講率
	2月	3月	小計				
政治経済	12	12	24	5	25	73	34.2%
欧米文化	9	5	14	9	19	40	47.5%
日本文化	15	24	39	8	40	81	49.4%
児童	15	22	37	4	38	96	39.6%
こども心理	10	15	25	8	29	60	48.3%
人間福祉	14	24	38	9	39	75	52.0%
計	75	102	177	43	190	425	44.7%

※受講対象者は、推薦、AO、自己推薦、一般A、Bの入学手続者



2. ラーニングセンターアンケート

ラーニングセンター※がアンケートを実施、受講生の入学後の希望や、キャンパスライフについて聞いた。
※ラーニングセンター：学習面で不安や悩みを抱えている学生への指導、相談、情報提供などを行う。

2014 入学前スタートアップ講座(2月、3月)ラーニングセンターアンケート

受講者

学部

学科

氏名

入試方法（該当するものを○で囲む）

①推薦（指定校、公募、その他推薦）

②自己推薦

③AO（講義型、レポート型、英語特別

※合格発表日 10/13・11/17・12/15・1/19）

④その他

I 次の項目の質問にお答えください。

1. 本学を選んだ理由はどんなことですか？

2. あなたの興味のある勉強の分野、あるいは高校時代に得意だった科目は何ですか。

3. あなたの高校時代を振り返っての感想を述べてください。

4. これから始まる大学生活への抱負を述べてください。

5. 大学時代にこれだけはしたいと思うことは何ですか。該当するものに○印を付けてください。（複数可）

①専門分野の研究

②クラブ・サークル活動

③アルバイト

④ボランティア活動

⑤読書

⑥旅行

⑦一人暮らし・親からの自立、⑧親友の獲得、⑨その他（

6. 今気がかりなことは何ですか（学習面で）

7. 今気がかりなことは何ですか（生活面で）

8. あなたの憧れていることや将来の夢は何ですか。

9. ラーニングセンターでは、学生の学習支援として各種の講習会を予定しています。
以下の中から参加したい講座に○印を付けてください。（複数可）

①文章の要約

②レポート作成

③ノートの取り方

④文章の読解

⑤その他（

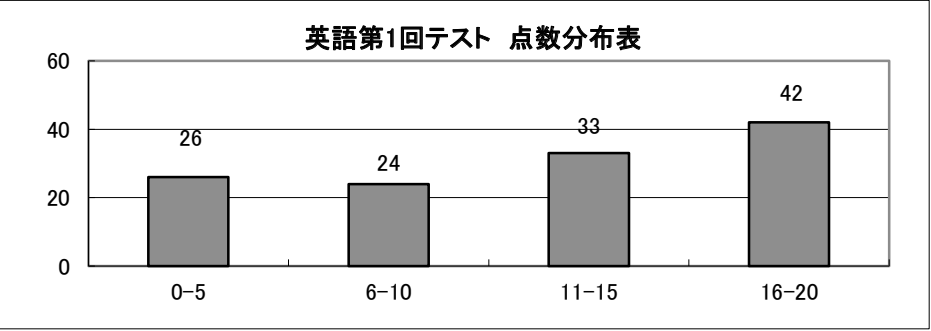
3. 各教科データ

英語テスト結果

講座内にて行われたテストの集計結果を掲載

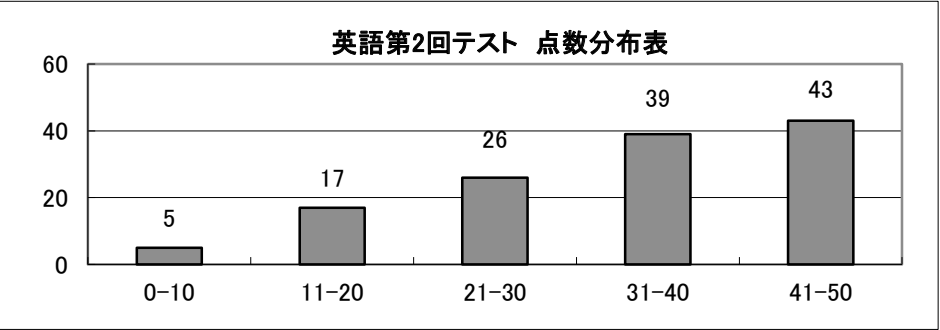
英語第1回テスト結果(20点満点)

	2月	3月	計
人数	48	77	125
平均点	11.5	11.9	11.7



英語第2回テスト結果(50点満点)

	2月	3月	計
人数	56	74	130
平均点	35.5	31.7	33.6

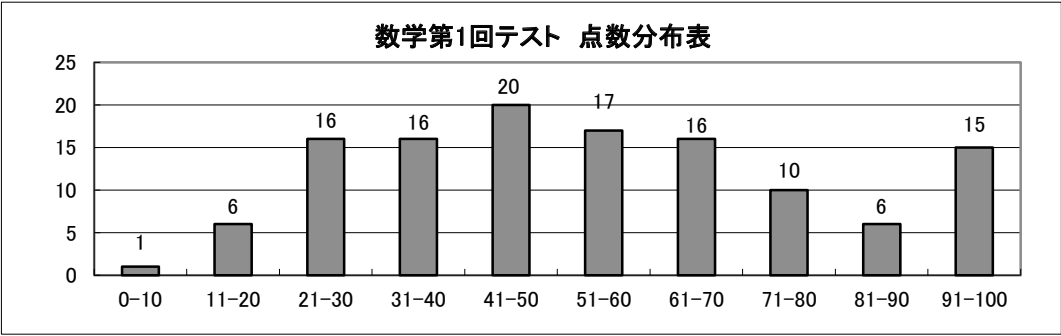


数学テスト結果

講座内にて行われたテストの集計結果を掲載

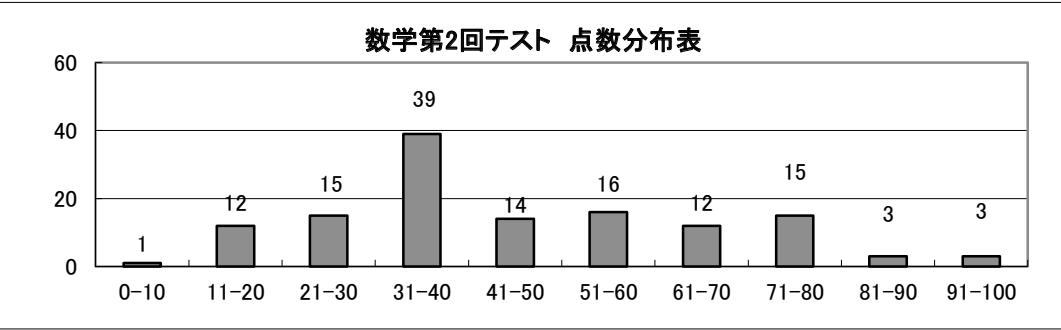
数学第1回テスト結果(100点満点)

	2月	3月	計
人数	52	71	123
平均点	56.3	57.6	56.9



数学第2回テスト結果(100点満点)

	2月	3月	計
人数	56	74	130
平均点	52.3	46.6	49.4



4. クロージングアンケート結果

2月、3月講座最終日に受講生に記入してもらった、クロージングのアンケートより集計・分析をした。グラフは、2月、3月の合計数を元としている。

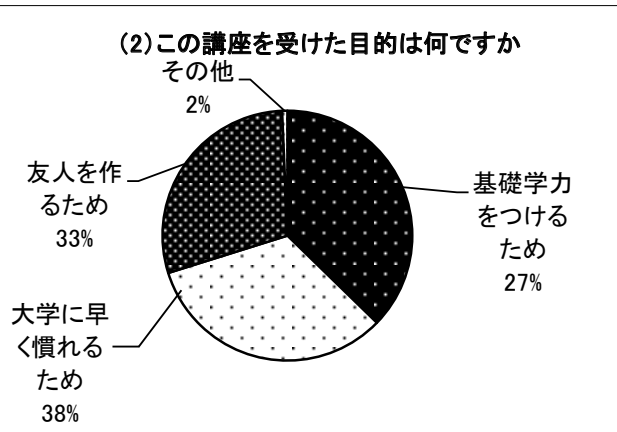
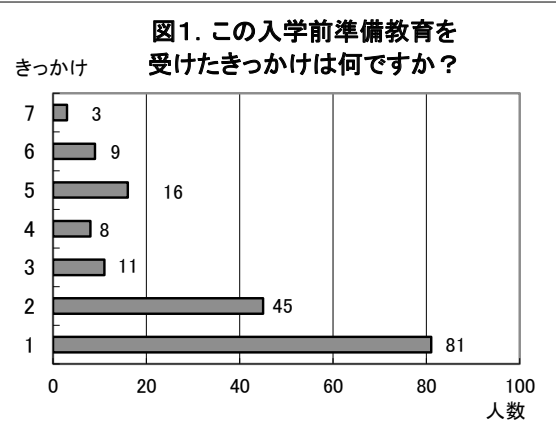
回答数			
	回答数	受講者数	回答率
2月	57	75	76%
3月	73	102	72%
計	130	177	73%

(1)この入学前準備教育を受けたきっかけは何ですか？(複数回答可。表1、図1参照)

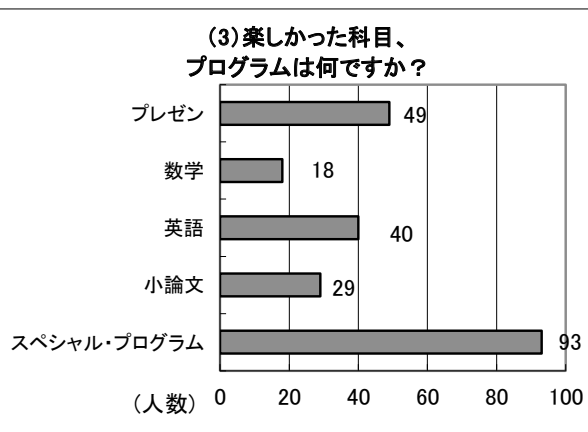
表1

きっかけ	2月	3月	合計
1 大学からの案内を見て自分で決めた	41	40	81
2 親に行くように勧められた	20	25	45
3 大学からの電話で勧められた	7	4	11
4 聖学院大学の入試で先生に勧められた	6	2	8
5 高校の先生に行くように勧められた	6	10	16
6 友達に誘われた	0	9	9
7 その他	3	0	3

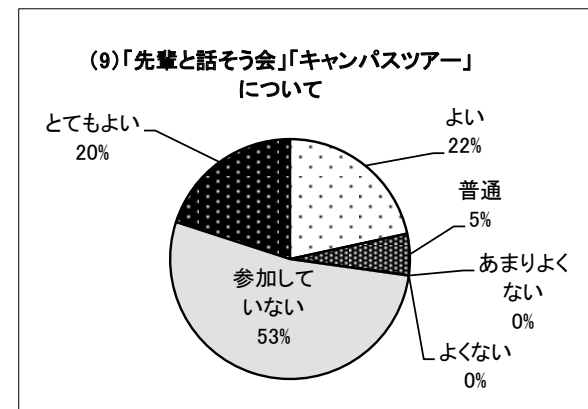
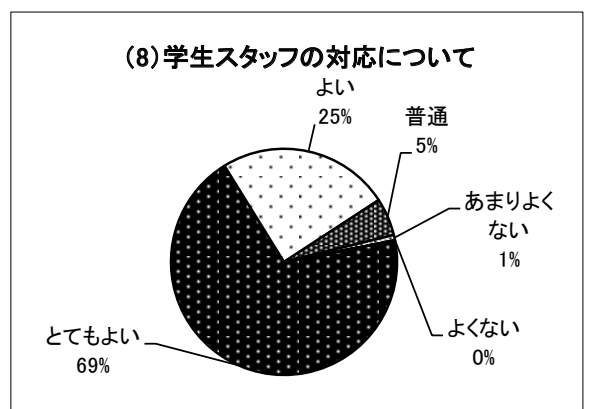
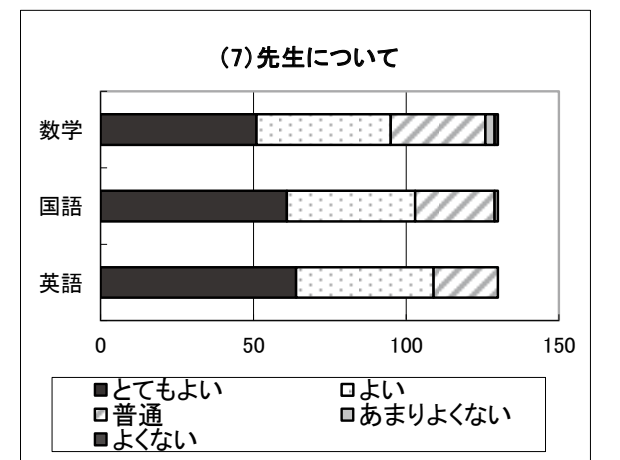
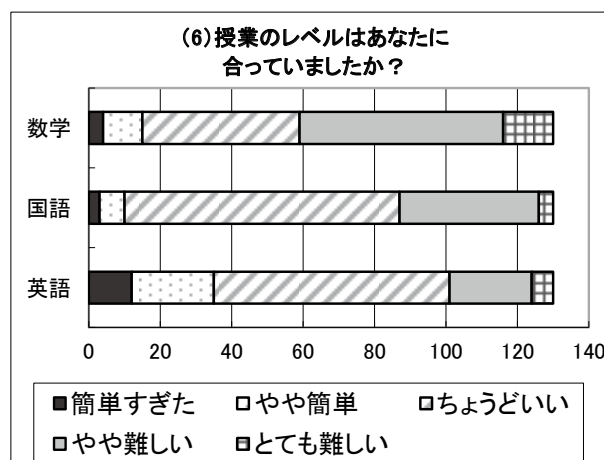
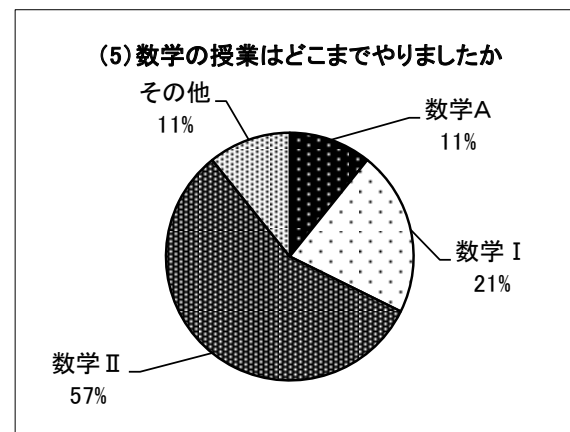
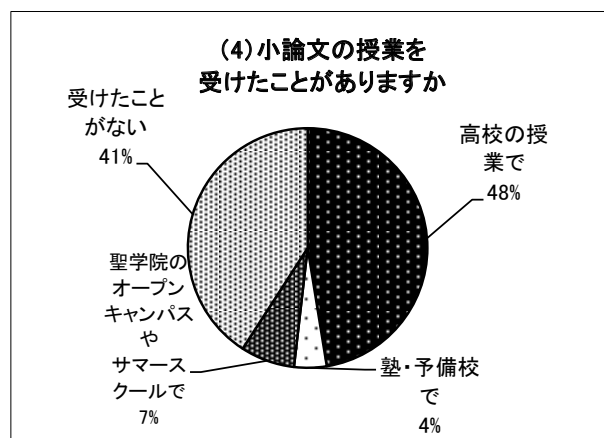
(人)



(複数回答可)



(複数回答可)



注1: 学生スタッフは総勢11名。1年生から3年生までの学生が朝8時30分から夕方5時まで入学前スタートアップ講座のスタッフとして、これにあたった。学生スタッフは、小論文の添削や受講生のサポート、スペシャル・プログラム運営サポートなども行った。

注2: 授業終了後、学生スタッフが企画・運営を行ったイベント。キャンパスライフの様子などを話す「先輩と話そう会」、大学内を学生スタッフと回る「キャンパスツアー」を行った。

(10) 自由解答欄より

同じくクロージングアンケートの自由記入欄より転載する。同じような意見は集約した。

授業の良かった点など

- 親の勧めでスタートアップ講座に参加しました。最初はどんなことをやるんだろうと不安でしたが、小論文の書き方や基礎英語、数学の講座を受けて、とてもためになったと思いました。
 - 高校で習っていない数学の内容も学ぶことができてとても良かったと思います。
 - 基礎がボロボロだったけど、先生に教えてもらって理解することが出来ました。
 - 先生方もとてもわかりやすく授業をしてくれたので改めて覚えることができたし、思い出しながらやれました。
 - 小論文の書き方がわかるようになった。
 - どの先生も教え方が丁寧で分かりやすかったです。
 - 大学にも慣れることができたし、高校の勉強の復習をすることができて良かったです。
 - 授業が90分で長いと思っていたのですが、先生が面白く早く感じました。スタッフの方々がとても優しくかったので、安心しました。
 - 数学の先生が顔を覚えていてくれて、たくさんお話しさせていただきました。うれしかったです。
 - 毎回様々な採点をしていただきありがとうございました。
- 特に小論文ではたくさんのアドバイスをいただき、自信がなくても「次を書こう」という気持ちになりました。
- それ以外でもスタッフさんが、みなさん優しくしてくれて、とても嬉しかったです。

入学前スタートアップ講座 学生スタッフ

今年度、学生スタッフは講座をより良いものとするため、話し合いを重ね、運営方法を見直した。10月から講座運営（主に小論文添削の仕方、受講生とのかかわり方など）について数回に渡りミーティングを開催、準備を行った。以下に今年度より新たに加わった主な点を紹介する。

- ・ 講座期間中は朝、タスタッフミーティングを開催（受講生の様子のシェアなど）
- ・ スタッフ間でミーティングノートや伝言板を作成（連絡事項の引継ぎに活用）
- ・ 受講生と学生スタッフが交流する「先輩と話そう会」「キャンパスツアー」を放課後に開催

ミーティングでは、受講生やクラスの様子などを学生スタッフ同士でシェア、どのような交流会企画が受講生にとって好ましいかなどを考えた。また、学生スタッフとの交流は、受講生の大学生活への不安を和らげることを目的とし、友だち作りなどもサポートした。

学生スタッフについて

- スタッフの皆さんが名前を覚えていてくれて、すごくうれしかったです。フレンドリーな先輩方が大好きです。4月からまたよろしくお願いします。小論文の言葉一つ一つ見返して、大学のレポート等頑張ります。楽しい時間をありがとうございました。
- 学生スタッフの皆さんが声をかけたりしてくれて、よくお話することができました。仲良くなったださってありがとうございました。
- スタッフの方が優しく接してくれてうれしかったし、楽しかったので講座を受けて良かったなと思いました。
- スタッフの皆さんが優しく、自分も（スタッフを）やりたいなと思いました。
- 先輩の色々な話を聞いて、これからの大学生活が楽しみになった。
- 自分が人見知りだったので、そこまで友達を増やすことはできなかったけど、同じクラスの人とは話せるようになりました。スタッフの先輩が、すれ違う時に話しかけてくれるのがうれしかったです。

入学前スタートアップ講座を通しての感想

- 大学に早く慣れたいなと思って来たので話せるかどうか不安でした。人見知りの性格だったので話すことができたのが嬉しかったです。同じ学科の人を見つけることができたので良かったなと思いました。
- 11日間とても楽しく学べました。「大学で友達できるかな」と不安に思っていたが、よい友達が出来ました。次に会うのが楽しみです。
- 最初はあまり乗り気ではなく、11日間は長いなと思っていましたが、実際に授業に参加してみると90分の授業があっという間に感じ、気がつけば最終日の11日目でした。先生、スタッフの皆さんのおかげで11日間楽しく感じられました。
- 最後のプレゼンテーションで共通の趣味での友人もできたので本当に参加してよかったと感じています。
- 入学してからさらに頑張ろうという気持ちが高まりました。
- 初めは長い間あるなと思っていましたが、実際はあっという間でとても充実した日々でした。入学してからはさらに充実した楽しい日々を過ごしたいと思います。
- 朝早く起きて電車に乗ったり、どの駅に乗り換えるのかわからなかったりして、色々大変だったけども、大学生活に向けて良いスタートがきれたと思います。
- めちゃ楽しかったです。授業は多くて大変だったけど友人もたくさんできて良かったです。大学へ向けての考えが、ハッキリとしてきたようです。

スペシャル・プログラム報告

1. NHK 仕事ハッケン伝 講演会 報告

2. NPO カタリバ 報告

3. プレゼンテーション例

4. 就活 News Navi 報告



1. NHK 仕事ハッケン伝 講演会 報告

2月5日（水）入学前スタートアップ講座初日、各界で活躍する著名人が“やってみたかった仕事”に挑戦する NHK 番組「仕事ハッケン伝」による講演会が開催された。プログラムは、入学前から就職活動を意識してもらうことを目的として、入学前スタートアップ講座2月講座に参加した受講生と、就職活動に取り組む大学3年生を対象に行われた。

吉木りささん（タレント）、河瀬大作さん（番組プロデューサー）の二人をゲスト講師に、首藤奈知子さん（NHK アナウンサー）を司会として、「決断する力」をテーマに、番組映像を交えながら、トークショー形式で開催。ゲスト二人がどのように仕事に取り組んでいるかが紹介され、トークショー後には質疑応答も行われた。



チャペルで行われた講演会の模様



会場入り口には「将来やりたい仕事は何ですか」といった質問ボードも設置された

参加した受講生の感想

- ・自分も後何年かしたら就職か進学か、とにかく目標を決めなければいけないと思った。
- ・就活はまだあまり想像がつかないが、3年後、今回聞いたことを活かしたい。
- ・直接、体験談を聞いたので良かったです。
- ・働くことは自分にとって色々なものを身につけてくれるものだと思います。
- ・社会で生活することの厳しさを実感した。これまでの生活とは違い、自分で考えて行動しなければならないと思った。
- ・今後必要になってくる話を聞いて良かったと思います。
- ・吉木りささんの体験談が聞いてよかった。説得力があった！
- ・自分が思っていたよりも、まだまだ知らないこと、苦労があることがわかった。自分が興味あることを仕事にできたらモチベーションも長く続くと感じた。

※入学前スタートアップ教育初日であったこの日、受講生は午前中に NHK「仕事ハッケン伝」講演会を聞いた後、午後は NPO カタリバによるプログラムに参加した。

プレスリリース

2014年1月24日

聖学院大学

広報局長 山下 研一

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

聖学院大学にて NHK「仕事ハッケン伝」大学生キャリア支援講演会を2月5日に開催いたします。

聖学院大学（所在地：埼玉県上尾市、学長代行：阿久戸 光晴）では、毎年3年生を対象とした大学内合同会社説明会を12月と2月に実施しておりますが、2014年2月5日（水）の説明会ではプログラムの一部（午前の部）として NHK「仕事ハッケン伝」大学生キャリア支援講演会を開催いたします。

「仕事ハッケン伝」とは「各界で活躍する著名人が“やってみたかった仕事”に1週間ガチで挑む姿を追うドキュメンタリー番組」で、すでに3 SEASON を放映。現在は SEASON4 の準備が進められています。当講演会では聖学院大学を会場として、過去に番組に出演した吉木りささんをゲスト講師として迎えて、NHK アナウンサーとのトークや質問を通して学生に働くことへの興味を喚起させ、仕事の醍醐味や楽しさを感じてもらうことを目的としています。当講演会の収録、放映はございません。

また、当日は聖学院大学入学予定者を対象とした入学前準備教育プログラム（スタートアップ講座）の開催初日でもあり、当プログラム参加者も講演会を聴講いたします。

【プログラム内容】

午前の部 NHK「仕事ハッケン伝」大学キャリア支援講演会

対象：聖学院大学3年生、1・2年生の参加も可、200名程度参加予定

時間：10:30～12:00（10時開場） 会場：聖学院大学チャペル

講師：吉木りささん（タレント）、河瀬大作さん（番組プロデューサー）

司会：首藤奈知子さん（NHK アナウンサー）

午後の部 学内合同会社説明会

対象：聖学院大学3年生

時間：2月5日（水）13:00～16:30 会場：1号館教室

参加企業・団体：50～60社

●聖学院大学（学長代行：阿久戸光晴 住所：埼玉県上尾市戸崎1番1号）

1988年設立。大学は3学部7学科（政治経済／コミュニティ政策／欧米文化／日本文化／児童／こども心理／人間福祉）のほか、大学院、総合研究所を有する（2014年度よりコミュニティ政策学科は政治経済学科と統合）。

取材のお申し込み、お問い合わせは下記へお願いします。

聖学院大学 広報局広報戦略室 担当：栗原、萩野

電話（ダイヤルイン） 048-780-1707 FAX 048-725-6891

e-mail pr@seig.ac.jp ホームページ <http://www.seig.ac.jp>

2. スペシャル・プログラム「カタリ場」報告

2月5日（水）、3月4日（火）、高校生を対象としたキャリア教育プログラムを行う認定 NPO 法人「カタリバ」をお招きし、学生スタッフと受講生が話し合いやプレゼンテーションを行った。

プログラムでは、本学の学生を含む、カタリバのキャストと呼ばれる大学生がスタッフとして参加。受講生のこれまでの中学・高校生活を振り返りながら、今後の大学生活のありかたについて考えた。

また、それぞれ2月講座、3月講座の最終日には、受講生一人ひとりがプレゼンテーションを行い、「カタリ場」で考えた大学生活のあり方、目標について発表を行った。



1. 受講生は 5、6 人ずつのグループに分かれて、アイスブレイクなどを行った



2. ワークシートを使いながら、グループごとに自己紹介



3. キャストが進路や友人関係、学生になって取り組んだことなどをプレゼンテーションする「先輩の話」



4. キャストの話を受けて、受講生自身が中高生時代を振り返り、今後の大学生活の目標を考えた



5. カタリ場を通して考えたこと、決意したことを「約束カード」に書き込む

●特定非営利活動法人 NPO カタリバ

カタリバは代表者今村久美氏により、2001 年に設立された高校生を対象としたキャリア学習プログラムを行う教育系 NPO 法人。主な活動地域は首都圏・関西圏・沖縄県・青森県・愛媛県・北海道。

親や先生などのタテの関係でもなく、クラスメートとのヨコの関係でもない、「ナナメの関係」である少し年上の大学生たちを主なスタッフとして活動している。「座談会」→「先輩の話」→「約束」という流れで成り立つ対話型ワークショップを通じて“自己理解”や“意欲”を引き出す。

<当日プログラム>

カタリ場は2月講座、3月講座いずれも初日に開催し、初対面である受講生同士が打ち解けやすくした。

また、カタリ場事業部統括ディレクター 今村亮氏に、プログラム全体の司会を行っていただいた。

なお国語の授業第6回目で取り組む小論文課題「大学で学びたいこと」では、カタリ場で話し合った高校時代の振り返りを活用して小論文を作成、最終日のプレゼンテーションへの土台作りとした。

聖学院大学×NPO カタリバ 入学前スタートアップ講座 当日プログラム		
2014 年 2 月 5 日 入学前スタートアップ講座		
時間	内容	場所
9:00～10:00	全体オリエンテーション (入学前スタートアップ講座について、諸注意、カタリバから)	4 号館 4 階 4401 教室
10:30～11:50	仕事ハッケン伝 講演会	チャペル
12:00～12:50	昼食	エルピスホール、インターネットカフェ、または屋外
13:00～15:00	カタリ場 司会:今村亮 1. アイスブレイク・共通点ゲーム(20分) 2. グループに分かれ自己紹介(20分) 3. 聖学院大学2～3年生による先輩の話(20分×2回) 4. グループごとに大学生活への約束(20分) 5. 全体発表と「仲間募集」(15分) 6. 記念写真(5分)	エルピスホール
15:00～15:20	解散、アンケート記入～自由時間	エルピスホール

2014 年 3 月 4 日 入学前スタートアップ講座		
時間	内容	場所
9:00～9:40	全体オリエンテーション (入学前スタートアップ講座について、諸注意、カタリバから)	4 号館 4 階 4401 教室
10:10～11:30	カタリ場(前半) 司会:今村亮 1. アイスブレイク・共通点ゲーム(20分) 2. グループに分かれ自己紹介(20分) 3. 聖学院大学1年生による先輩の話(20分×2回)	エルピスホール
11:30～13:00	休憩(昼食)と発表準備 テーマ「大学生活の約束」	エルピスホール、インターネットカフェ、または屋外
13:00～15:00	カタリ場(後半) 司会:今村亮 1. テーマ班内発表(40分) 2. テーマブロック発表(30分) 3. テーマ全体発表(35分) 4. 仲間募集(10分) 5. 記念写真(5分)	エルピスホール
15:00～15:20	解散、アンケート記入～自由時間	エルピスホール

<準備・振り返り・受講生の感想>

1. 準備

カタリ場では、キャストと呼ばれる研修を受けた学生スタッフが主体となり、プログラムを進行、受講生をフォローした。本学の学生スタッフも1月より大学で行われた研修とカタリバ本部（高円寺）での準備を行い、キャストとして参加した。2月講座は本学の学生のみ、3月講座は本学の学生とカタリバからの学生（他大学学生）による混成で開催した。

※2月講座は、午前中に「NHK 仕事ハッケン伝」講演会、午後にはカタリ場を開催。3月講座は終日カタリ場を行った。

2. 振り返り

カタリ場終了後には、司会進行を務めたカタリ場事業部事業部長 今村亮氏とキャストの学生スタッフによる振り返りが行われた。以下にその中で出た意見の一部を紹介する。

- ・グループ内で、どういった話の時にどんなキーワードが出たかを話させ、受講生同士で意見を出し合わせた。こちら側（スタッフ側）からヒントをだして、それ以上は口を出さず見守った。
- ・ぐいぐい声を掛けると、緊張している受講生は身を引いてしまうため、様子をよく見ながら対応した。
- ・一人で困っていた子に気付くことができず、声をかけることができなかった。しかし、「先輩の話」で受講生一人ひとりの反応や様子を見ることができた。
- ・「先輩の話」の中で、受講生とコミュニケーションをとり、質問などもこちらから持ちかけることが大切である。
- ・あえてスタッフが介入せず、受講生同士で会話をさせて仲良くしてもらうようにすることも重要。
- ・受講生たちのグループ内に、どこから介入するか、どこまで見守るかを考えることが大切である。

3. 受講生の感想

- ・たくさん交流して、お話しもできて楽しかったです。これから始まる講座も楽しみです。
- ・みんなと話せてとても楽しかった。今日会ったばかりとは思えなかった。
- ・先輩が明るい！友だちできた！経験談が聞けてよかった。
- ・大学に行くにあたり、少し自信がついた。
- ・後輩のために頑張っている先輩たち、とてもかっこよかったです。
- ・今日だけでもこれから始まるスタートアップ講座が楽しみになりました。
- ・だんだん恥ずかしさが無くなって行って、とにかく楽しかった。
- ・自分のやりたいことがまだはっきりと分からないので、とてもためになりました。
- ・勇気を出して発言できた。
- ・入学が楽しみになりました。

プレスリリース

2014年1月27日

聖学院大学

広報局長 山下 研一

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

今年で14年目、聖学院大学で入学予定者対象の講座を行います

—学生スタッフが主体となり、受講生の友だちづくりや早期就職対策をサポート

聖学院大学（埼玉県上尾市、学長代行＝阿久戸光晴）では、推薦入試やAO入試等で早目に入学手続きを終えた2014年度入学予定者（希望者）を対象として、2・3月に「入学前スタートアップ講座」（<http://www.seigakuin.jp/admission/jizen/>）を行います。これは、大学に必要な基礎学力を確認し、補うことを目的とする特別授業で、今年で14年目を迎えます。英語・数学・小論文を、約10日間という長い期間のスクーリングを行う同講座は他大学では例がありません。受講生に年齢が近い、学生スタッフも運営に参加し、受講生の友だちづくりや不安解消をサポートします。

なお、初日2月5日（水）、3月4日（火）に特定非営利活動法人NPOカタリバが行うキャリア学習プログラム「カタリ場」を実施、先輩たちと対話をしたり、体験談を聞いたりすることで、大学生活へのモチベーションを高めるきっかけの場となることを目的としています。このほか、様々な取組が、離学者対策、基礎学力を確認することによる早期就職対策ともなっています。

※2001年度より入学生を対象に実施してきた「入学前準備教育」は、今年から「入学前スタートアップ講座」と名称を変更して実施します。

【実施日】（11日間）

<2月講座> 2月5日（水）～7日（金）、10日（月）、12日（水）、13日（木）、17日（月）～21日（金）

<3月講座> 3月4日（火）～7日（金）、10日（月）、11日（火）、13日（木）、14日（金）、17日（月）～19日（水）

【実施科目】小論文、英語、数学（2月、3月とも、基本的に同じ内容）

【受講者数（参考）】昨年2月の受講者は99名、3月は99名（受講率47.3％）。

【取材のお問い合わせ】 聖学院大学広報戦略室

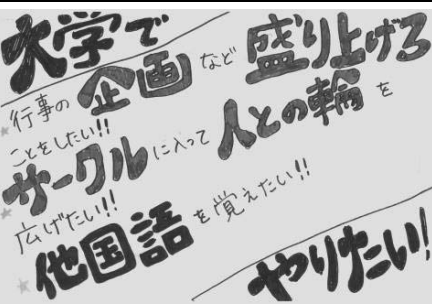
電話（ダイヤルイン） 048-780-1707 FAX 048-725-6891

E-mail pr@seig.ac.jp

3. プレゼンテーション例

2、3月講座最終日、プレゼンテーションとしてOHPを利用し、自己紹介を行った。プレゼンテーションでは、スペシャル・プログラム「カタリバ」を通して考えた大学生活のあり方や、どのような大学生になりたいのか、といった点をそれぞれが発表した。以下に作例を掲載。発表者氏名、高校等、個人情報に関わる部分はマスキングをしている。（■以降は、学科、試験、性別）

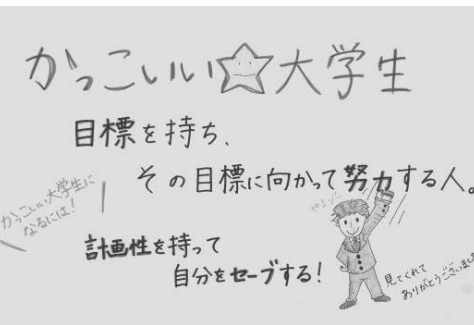
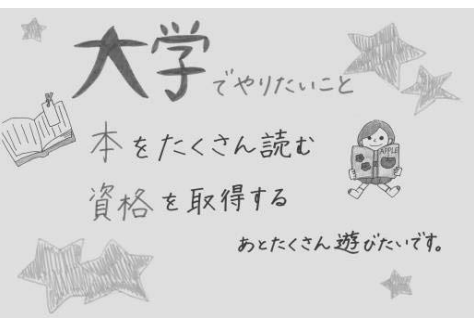
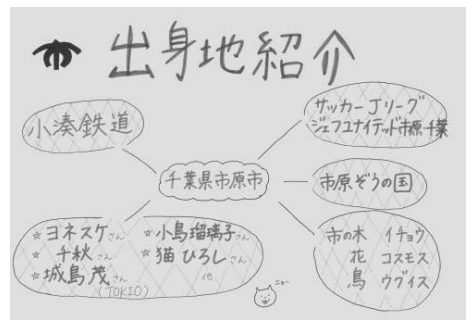
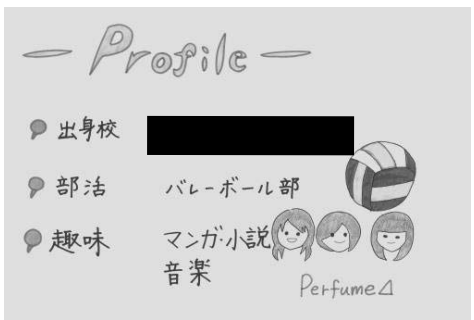
■ 政治経済・AO・女



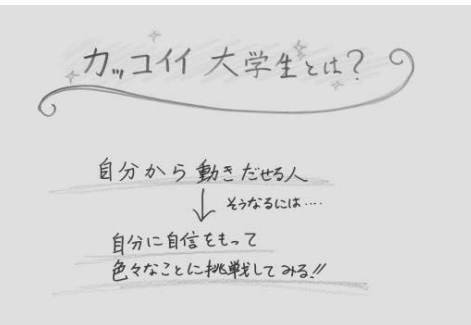
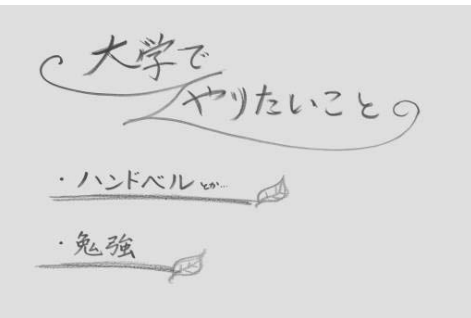
■ 欧米文化・AO・男



■ 日本文化・一般・女



■ 人間福祉・推薦・男



3. 就活 NewsNavi 報告

就活 NewsNavi は、2011 年度より始まった共同通信社が配信するインターネットで読むことのできる就活生向け（学生向け）のニュースサービスである。業界研究、企業研究など就職活動に直結するニュースを紹介しており、聖学院大学でも在校生向けに 2011 年度から導入している。入学前スタートアップ講座では 2013 年度より導入し、講義でも活用した。



受講生はラーニングコモンズ※のパソコンを使って登録。



学生スタッフが就活 NewsNavi の登録サポートを行った。

①ガイダンス・登録

2 月講座、3 月講座初日には、就職活動への意識づけ、またニュースを読む習慣づけをするために、就活 NewsNavi 活用ガイダンスを開催。共同通信社よりご担当者をお招きし、登録や活用方法について話していただいた。その後、受講生は個別に登録作業を行った。

②就活 NewsNavi の活用

国語の授業第 5 回で行われた小論文課題「日本社会を考える」では、新聞やニュースなどから受講生自身が記事を選び、要約・考察を交えた課題作成が行われた。課題作成には新聞記事のほかに、就活 NewsNavi を使って記事を選び、小論文作成に結びつけた。

なお、就活 NewsNavi はスマートフォンから閲覧することができ、多くの受講生はスマートフォンを使って、記事を検索した。

就活 NewsNavi は登録制となっており、本学の学生であれば大学入学後に無料で使うことができる。※ラーニングコモンズ：パソコンや学習スペースを設け、学習についての疑問や相談に応じる。入学前スタートアップ講座では、入学後、積極的に利用してもらうため、施設紹介を兼ねて、本スペースを登録場所として利用させていただいた。

次ページより、ガイダンスの際に配布された就活 NewsNavi 活用法レジュメを掲載する。

聖学院大学入学予定者のみなさん

就活 NewsNavi 活用法

2014 年 2 月・3 月

「入学する前から就職活動の話なの？そんな先のことと言われてもなあ…」。

みなさんからそんな声が聞こえてきそうです。たしかにそう感じるのも無理はないですね。でも、こんな風に考えてみてはどうでしょうか。

実は就活って特別なことではありません。みなさんが大学生活で積み重ねてきたことを面接でちゃんと話せば、それで大丈夫なんです。ですから、ぜひ、1、2 年生のうちから社会のこと、経済のこと、業界のこと、企業のこと、働くということを少しずつでいいので考えてみてください。

就活 NewsNavi には世界と日本のありとあらゆることに関するニュースが詰まっています。共同通信社という全国の新聞社、放送局にニュースを送っている報道機関の提供です。情報とは「生きていく力」の基となるものです。このサービスを活用して、みなさんが視野を広げてくださればと願っています。

就活 NewsNavi 編集部一同

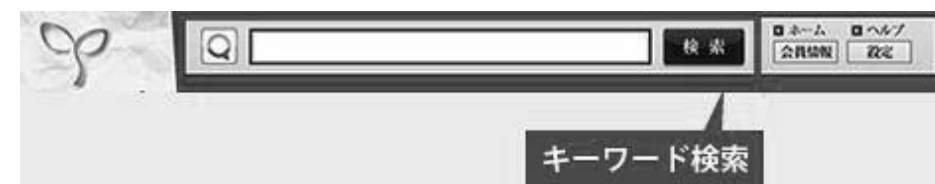
【小論文での活用法】

（１）「共同トピックス」

今、世の中で問題、話題になっている事項を取り上げて徹底解説しています。小論文のテーマに関連しているタイトルがきっとあります。そこに載っている記事を読みながら自分の考えをまとめてください。



（２）記事検索機能



就活 NewsNavi に収容された膨大な情報（ニュースソース＝共同通信、週刊ダイヤモンド）に加え、共同通信が過去 6 年間に配信したすべての記事をキーワード検索することができます。分からない言葉があれば、こちらで検索して調べてみてください。

【就活 NewsNavi のメニュー】

（１）「厳選ニュース」

前日のトップニュース１０本前後を厳選して配信します。就活生なら知っておいてほしいニュースばかりです。毎日これを読む習慣をつけてください。知らず知らずのうちに、あなたの社会人基礎力がアップします。

（２）「業界研究」

さまざまな業界を約８０に区分して専用ページを作りました。まず、業界名の一覧に目を通してください。気になった業界の専用ページを読み込んでください。自動更新の最新ニュースもお見逃しなく。

（３）「企業研究」

主要企業１６００社以上の専用ページをつくりました。内容は随時、バージョンアップされます。自動更新の最新ニュースは面接前に必ず目を通してください。

（４）「キャリア研究」

働き方、生き方に関する記事を集めたページです。毎日更新。じっくり読んで職業観を養ってください。

（５）「ブリーフケース」

気になる記事を保存できるデジタルスクラップ帳です。自由にフォルダを作成してテーマ別に記事を整理できます。また記事ごとにメモを書いて保存することもできます。

（６）「共同トピックス」

今という時代を理解するための最重要テーマを選び、徹底解説しています。記事を読んでいて「分かりにくい」と感じたらこのページに。「就活リンク集」「就活サブリ」など、会社選びから面接突破法まで、あなたの就活生活に役立つコンテンツも多数掲載されています。

（７）メールマガジン

毎週金曜日に、就活関係の情報を満載したメールマガジンを配信します。

実施の総括・実作例

1. 講師紹介

2. 実施の総括（英国数）

3. 小論文実作・添削例



講師紹介

上嶋 康道 （基礎英語）

現在、聖学院大学政治経済学部政治経済学科非常勤講師（基礎教育入門書き方担当）、開智中学高等学校一貫部英語科非常勤講師、東進ハイスクール英語科講師など。

高畠 慎一 （基礎英語）

予備校教師として小論文・英語・世界史を教える。都内私立高校を中心に課外講師としても活躍。また、関東近郊公立高校・私立高校で大学進学講演を多数担当。入試問題の分析に通じており、多くの受験生を第一志望の大学に合格させている。

※高畠講師は基礎英語の一部を担当

岡田 安司 （基礎数学完成）

京都府出身。国立大学法学部卒。大学受験予備校講師として数学・現代文・古文などをマルチに教える経歴を持つ。大人数の授業はもとより、一人ひとりの学力レベルに合わせた面倒見のよい指導で人気がある。

大槻 岳 （文系国語表現力基礎）

聖学院大学政治経済学部政治経済学科非常勤講師。
帝京大学非常勤講師。日本リメディアル教育会会員。社団法人全国学力研究会評議員。ティーオー（株）代表取締役。

大手予備校ではセンター・国公立難関私大の模試作成や解答速報も担当。入試問題を出題者・採点者の「眼」から切り出す鋭い解説に加え、テンポと間を重視したメリハリのある授業内容は多くの生徒から絶大な支持を得ている。

また、首都圏各高等学校を中心に、大学進学講演・小論文講演・教員対象研修を年間 50 回以上行っている。

受講生は高校生だけにとどまらず、非常勤講師として大学でもキャリア教育の講座を持つと同時に、オープンキャンパスの講師を始め、入学前準備教育などの依頼も多く、春期には複数の大学で文章力講座を実施。特に、聖学院大学での入学前準備教育（現・入学前スタートアップ講座）は、担当講師として朝日、読売、毎日の三大紙の紙面を飾るなど注目度は高い。

1. 基礎英語

基礎英語担当 上嶋康道

《基礎英語の目標について》

授業の目標は、参加者が英語に抱いている苦手意識を緩和すること。例年通りである。現行教育システムの中で生徒がふれる英語には、教科課程である以上、成績評価が必要となる。そして成績評価には、通常、試験が行われる。その試験は、採点の公平性・容易性を理由に、周囲からの援助が期待できない環境で実施される。現実の英語運用場面では辞書やインターネットの利用は可能であることが多いはずだが、試験においてはその利用が認められない。したがって、試験でよい点を取ろうと思えば多くの知識の暗記が必須となる。覚えなければならないという気持ちや、新しいことを学ぼうことに対してプラスに働くのは難しい。英語嫌いとなる原因の一つと思われる。以上の問題意識を持ったうえで、特に最初の授業では「間違いをすることに恐怖心を抱いてはいけないこと」を強調している。

とはいえ、生徒たちが入学後授業についていけるか不安を抱いている以上、それに応えなければならない。そこで基礎知識の確認は引き続き重視した。受講者の中には実質的には英語から何年も遠ざかっている者も多いからである。このような状況でアンケートの結果を見ると「もっと文法を」という声があった。この傾向は年々強くなっているようである。母語以外の言語習得には規範的側面からのアプローチは有効であろうが、習熟度別クラス編成を採用していない本講座ではなかなか難しいのが実情である。

《内容について》

点数を取るための学習からの脱却という目標のために、多様な英語との触れ合い、特に音声面での英語体験を重視している。言葉を学ぶのに音はきわめて重要な要素である。しかし、学校教育はもちろん塾予備校でもその点はなかなか手が回っていないのが現状である。前述のとおり、単位の認定を伴う正規の授業で教えようとする場合、試験による定着度の確認が必要になる。ところが、音声学習と試験は相性が良いとは言えない。入学前スタートアップ講座の基礎英語では単位が認定されない。受講生は熱心に取り組んでいるので少々残念なことである。しかし、だからこそ、通常ではスキップされがちな部分を丁寧に指導できるというメリットもある。英語習熟度のばらつきが尋常ではないほど大きい読解より、音声面の授業のほうが好都合という事情もある。加えて、文法・読解の英語が不得意な受講者が、発音聞き取りでは短期間でめざましい向上を示すことが珍しくない。

以上のような背景で、発音と聴き取りのポイントを強調している。2010 年からはフォニックスの要素も取り入れている。このあたりの基礎的なところまで戻って話をする方が有効なようである。綴りと実際の音声とのずれについては例年通り今年も力を入れた。受講者の

反応も良好であった。

さらに、辞書の引き方も学ぶ。そもそも辞書を所有していない生徒も実は多いということは、本講座のような高大接続系の授業を担当する人間なら知っておかなければならない事実である。スマートフォンではなく電子辞書を購入するようには勧めた（欧米文化学科に進学する生徒には紙の辞書を積極的に使うことを進めている）が、強制はできない。携帯電話のみ所有の参加者には辞書サイト大手の weblio を紹介し、その使用法を教えている。

《受講生の印象》

2013 年ころから 3 月講座の参加者が増加している。しかもここ 2、3 年出席率が上昇している。今年も出席状況はよかった。

残念ながら例年通り、現時点での英語力という点では厳しい評価をせざるを得ない。be に続けて動詞の原形を書いてしまうなど、基本的な誤りが目立つ。ここ数年顕著となっている。もちろん、聖学院大学に特有の現象ではない。このような、いわゆる学力低下については時折メディアで面白半分に取り上げられることもある。be 動詞を教えている大学について記事が書かれ話題になったのは記憶に新しい。教員は生徒の批評をするのが仕事ではない。どうやれば困っている者——目の前にいる現実の存在——の力になれるかを考えることがずっと大切である。

ただ、机間を巡視しつつ助言をすると自ら修正できることが多い。やはり授業時間数の絶対的不足など環境要因は極めて大きい。もちろん、指導要領が変わってどうなるかは一定期間経てみないとわからない。

《来年度に向けて》

引き続き受講生が自ら学ぶことの出来るカリキュラムの工夫が今後の課題である。新聞記事などホットな素材を使うことも検討したい。

(1)本講座のカリキュラムと学生の印象について

2007 年より基礎英語の一部を上嶋講師とともに担当させていただいております。

英語を使ったコミュニケーションスキルの必要性が強調されるようになり、かなりの年数が経過していますが、私たち自身がその必要性を痛感する機会というのは、日常にはあまり見られない傾向にあるとも言えます。異文化共生社会に対応できるように、日本社会のあり方も変容していくべきだということも、常々主張されていますが、それを日常レベルで実感することは少なく、学問の世界やビジネスの世界に生きる人々こそ、日本語以外の言語を用いてのコミュニケーションの難しさと、英語学習の必要性を痛感しているのだと思います。

そうした状況にあっても、中学校入学以来、英語学習を続けてきて、自らの英語の運用能力について、私たち自身が何とかしなければならないと感じている中、特に多くの学生が、大学進学という新たなスタート地点に立つにあたって、英語学習について何から学ぶべきなのか、強い期待と不安とを覚えているのではないかと思います。

書店を覗けば「語学」のコーナーには様々な学習書や英語教材が溢れており、「はじめからやり直す」材料には事欠かない現状にあります。また、i-pod や各種タブレット、スマートフォンが普及したことによって、聴覚だけではなく視覚的にも英語を学習することができる教材が普及しています。そうしたツールが充実する一方で、どのような学習方法や教材を選択すればよいのか、自分で判断して決定することがますます難しい状況にあります。特に本講座を受講する学生は、英語そのものに苦手意識を持ちながらも「何とかしたい」という真摯さを持っているため、何から手をつければよいのか知りたいという思いを持っていると感じられます。

入学前スタートアップ講座は、英語の学習を得る機会であると同時に、巷に溢れている様々な学習手段にどのように接していけばよいのか、何を基準に自分に合った学習方法の選択をすれば良いのか、アドバイスを受けることができる機会でもあります。

英語の運用能力を磨き上げていくためには、多くの積み重ねが必要であり、全 8 回で英語のすべてを網羅することは不可能です。そこで、冒頭にも掲げたように、講座終了後は受講生自身が様々な学習手段を選択し、自力で英語学習を継続できるように、授業内では今後取り組むべき「英語学習とは何か」を示しながら「学習範囲の全体を見せる」講座を展開しています。

受講生の学力を鑑みて、講座の第 2 回と第 3 回においては、「動詞」の文法・語法の習得を目的とした文法の授業を行っています。英文は、その文の主体を示す主語の動作、状態などを示す「動詞」を中心に組み立てられると言えます。そこで、動詞の種類を把握することからスタートし、その後の英語学習の起点とするようにしています。

扱う内容は中学校基礎～高校入門レベルのものですが、学生にとって、非常にやりがいのあるカリキュラムになっています。英語学習を進める上で、文法のような「理屈じみた」カリキュラムは学生に敬遠される恐れがあります。しかし、その一方で、本講座を受講する学生は文法の重要項目部分について、基本的な理解にも不安があると感じたため導入しました。最近は授業内に行ったアンケートの結果を見ても「もっと文法について扱ってほしい」という声が多くを占めています。

文法に時間をかけすぎると、どうしても speaking や listening などの英会話学習にかけ時間が少なくなってしまう。よって、文法に偏り過ぎることは問題ですが、英語学習を進めていく上で、自分に必要なものを考えた場合、文法という基盤を作りたいという考えを持つ学生が増えてきているようです。

この点、次年度のカリキュラムにどう反映していくべきか、検討していきたいと思います。

多くの学生は「英語を使ってコミュニケーション」できるようになることを望んでいます。しかし、英語ではどのように表現するのか、十分に知らないため「話したくても話すことができない」状況にあります。挨拶表現をはじめ日常会話レベルであっても、基礎的なフレーズを知らないまま会話の中に放り込まれては、言いたいことはあっても表現する術がないため、沈黙せざるを得なくなってしまう。

そこで、ここ数年は、第 1 回の授業では、「英語の自己紹介文」の「サンプル文」を配布しています。これは、自己紹介の定型表現で成り立つもので、氏名・住所・趣味など自身の情報について話すところは空欄にしてあります。各自、書き込んでもらった上で、数分かけてサンプル文全体をなるべく覚えてもらうようにしました。その上で、英語が苦手な人は、サンプル文を見ながらでも良いのでという条件も設定しつつ、机を同じにする隣席の学生同士、英文を使って自己紹介しあう時間を設けました。発音のおかしさや、言い間違いは気にせず、できる限り相手の目を見ながら伝え合うことをアドバイスしましたが、昨年同様に大きな盛り上がりを見せました。英語を使って表現することのきっかけになったのではないかと思います。

既に身につけている日本語とは違い、外国語である英語で会話を行う場合、基本フレーズを習得していることが前提となります。今後も、こうした「会話表現」を紹介する機会をできる限り設けていきたいと思います。

(2) 本年度の受講生の印象

同じクラス内でも、中学の時点で英語学習が止まってしまっている学生から、英語資格の取得を目標に持つ学習意識の非常に高い学生までと、受講者の様子も様々です。例年、講座内においても、一部の学力の高い学生にとっては手持無沙汰な内容があり、2月期の受講生については、各クラスに若干名、そうした学生が見られました。しかし、文法には問題がなくても、listeningは苦手など、すべてにわたって本講座の内容が基本的過ぎるという様子を見せる受講生はいなかったのではないかと思います。

授業内容以外についての受講生の様子ですが、ここ数年見られる傾向で、授業態度や姿勢において、その意欲や意識を「表に出さない」で、授業で提供されたものを消化する学生が多いという印象を今年も持ちました。ただ、同じ趣味を持っている等のきっかけがあれば、何を学びたいのか意欲を示します。

先に述べました、文法の授業を求める声ですが、学生によっては授業終了後にどのような教材を学ぶとよいのか、質問に来る学生もいました。本来は学生自らがこのように、要望を声に出してくれるとよいのですが、学生が何を望んでいるのかを言語化させて、コミュニケーションをとりやすくするためには、リアクションペーパー等の手段だけではなく、数名の学生に直接話しかけるくらいの「開かれた」試みがひょっとすると必要なのかもしれません。

本年はそのことを意識して、できる限り一方的な授業にならないようにしましたが、「英語」という外国語を媒介とするため、限界はあります。その分「発声」「ディクテーション※」など、できる限り学生が参加できるような機会を設けていきます。

※ディクテーション：講師などが読み上げた外国語を生徒が書き取る学習方法。

(3) 来年度への提言

来年はさらにテキストの内容改訂を予定しています。文法、発声等についてはここ数年のものを踏襲しておりますが、文法については、扱う内容や英文のタイプを増やすなど、学生の声と学力の現状にこたえたものにしていきたいと思います。本年度は「リーディング」「読解」については、受講生の興味・関心に対応した様々なジャンルのものを選出し、掲載し、英語で書かれた文章を「読む」ことのきっかけを作りに貢献できるカリキュラムを導入する予定でした。英字新聞に掲載されている様々な分野のコラムを教材としてピックアップし、授業内で扱い、受講生に英語で書かれた文章を「読む」ことの面白さに触れてもらおうと考えてです。

しかし、新聞であるがゆえ、時事性の問題もあり、教材として選定した当時には良いと思ったものであっても、講座の時期となると風化していることもあり、導入に至りませんでした。さらに普遍性のあるものを選ぶべく、これを次年度に向けての反省と改善点とします。



受講生同士での教え合いも行われた授業

2. 基礎数学

基礎数学担当 岡田安司

(1)今年度の反省と今後の指針

基礎数学の授業の進め方として、考慮しなければならないのは次の3点でした。

- ①進度を遅くすること。
- ②学生同士で教え合うこと。
- ③自分で考える時間を増やすこと。

①進度を遅くする点について

これは過去数年順調に達成されて来た課題です。今年度も授業進度をかなり遅くして、充分考える時間を確保するようにしました。その結果か、テキストの確認問題や実践問題の出来はかなり良かったので、学生の定着度は年々高まって来たと考えられます。

ただ、巻末の補充問題は、難解過ぎるせいか、十分に消化されないまま終わってしまいました。円や平行線に関する角度問題は、学生も進んで解いていましたが、立体や速さの問題まではなかなか手が出なかったようでした。

そこで、次年度以降に於いてはこれを改善して、「少し手を伸ばせば自力で解決できる」問題レベルにすべきだと考えています。なぜなら、数学に於いては何よりも「解ける喜び」が大切だからです。こうして今教えている私も、数学が好きになったきっかけは「解ける喜び」にありましたから。

授業進度を遅くして「自分で考える」力を養いつつ、補充問題で「自力で解ける」達成感を味わってもらうわけです。達成感があると「数学って楽しい」と思えるようになります。

「楽しい」と思えたら、今度は身の回りにある数学に挑戦できるようになります。

例えば、300 円の 2 割引きの牛肉 150g と、200 円の 30 円引きの豚肉 100g ではどちらが安いかなどです。数学でも英語でも、「解ける喜び」からやる気が生まれ、実生活に応用してみても実際に役立つところから、その有り難みや価値が分かるのではないのでしょうか。

②学生同士で教え合うことについて

この点については、昨年度図形問題を増やした為に、例年以上に教え合う姿が見受けられました。数学は嫌いでも、円や立方体の展開図は分かる、という学生は沢山います。少しでも分かると人に言いたくなるのでしょうか。今年度は、うるさく感ずるほど「教え好き」が沢山いて微笑ましく感じました。

人に教えることで自分の理解が深まったり、逆に案外理解できていないことに気付いたりしているようでした。やはり教え合うことは、「自分で考える」とことと自動車の両輪みたいなものです。「自分で考える」だけでも駄目だし、「教え合う」だけでも駄目です。「自分で考え」たことを「教え合う」という、2 面が噛み合うことで初めて本物の理解になって行くように思います。

そこで、次年度以降ではもっと「教え合う」場面を増やす為に、図形問題や立体問題に加えて、体積問題や面積問題なども導入すべきだと考えています。

これらは、知識に頼ることなく色々工夫して計算することで解決出来るものばかりですから、「教え合う」素材として最適でしょう。もっとうまく解く方法はないか、もっと簡単に計算できないか、と工夫する中で「教え合う」ことが生きてくると思います。

③考える時間を増やすこと

この点が重要なのは言うまでもないことですが、問題はそれをどのように引き出すかです。難しすぎると最初から放棄してしまいますし、逆に易しすぎると考えるまでもなくなってしまいます。テキストの質が問われるところです。

その意味では今年度の「6 三角形の性質」は難し過ぎたのではないかと考えています。ヒントを幾つも出さないと、解決の糸口にも辿り着けず途中で放棄してしまいそうな学生が沢山いました。

そこで次年度は、もっと易しい段階も踏まえながら、少しずつ上って行けるような問題構成にしたいと思います。例えば、三角形の相似と比をまず理解出来るような問題を配置した上で、面積の比を考えるようにするなどです。

しかし、比や割合は小学校で最も躓く箇所ですので、十分な配慮が必要です。このように言うと、そんな所まで戻るのかと驚く人が沢山いらっしゃるでしょう。しかし、円周率を 3.14 ではなく 3 とする学校もあるくらいですから、このようなことは驚くレベルではありません。

(2)学生の反応と気質

自分で考え、考えたことを人に教え合う姿勢は、例年以上に沢山見受けられました。学生の学力が高かったせいか、自分でどんどん自発的に解き、分からない時は質問もするし周りの友達と教え合って解決していました。

しかし、よく言われるように学生全体がどうも「草食化」している気がしてなりません。大人しくて若者らしいパワーがないのです。

例えば、私は授業の半ばに息抜きとして心理ゲームを実施していますが、学生はこれをまるで「授業」として受けているのです。

本当はもっと自分の性格を気軽に反省したり、分析するきっかけにして欲しいのに、ゲームをただ「聞く」だけで終わっています。

「好きな動物を 4 つ挙げてそのイメージを書け」と言っても、イメージを書かず、ゾウを「耳が大きい」とか「鼻が長い」と表現して終わります。自分なりのイメージを書いてこそ「心理」ゲームなのに、これでは何にもなりません。ただ叱られずに無難にゴールインすればそれで良い。そんな「ゲーム」そのものを生きる人生で果たして良いのか。と歯痒い気持ちになりました。

(3)次年度に向けて

以上述べたところから、次年度の授業の在り方として、次の 2 点を提案したいと思います。

- ①問題を「解ける喜び」を通じて「数学が好き」になるようなテキストレベルにすること。
- ②面積や体積問題を増やして、自分で考え教え合える場面を増やすこと。

こうして考えてみると、今の状態はまだまだ試行錯誤の段階に過ぎないと実感します。今後もっと工夫して、学びやすい環境を提供出来るよう努力することが必要だと考えます。

3. 文系国語表現力基礎

文系国語表現力基礎担当 大槻 岳

1) 担当教科の実施概要・狙い・授業展開方法など

主に推薦入試での合格者を対象とする 2 月講座、主に一般入試での合格者を対象とする 3 月講座の両方において、担当講師作成による同一のカリキュラムで講座を設置した。

第 1 回「伝え方、考え方の基本」

第 2 回「論文の型 1 原因追求型・論点指摘型」 ※課題提出（第一回必修）

第 3 回「論文の型 2 功罪指摘型・賛否/選択型」 ※課題提出（第二回）

第 4 回「論文を書くための要約」※要約課題

第 5 回「日本社会を考える」 ※課題提出（2 月講座第四回、3 月講座第三回）

第 6 回「大学で学びたいこと」 ※課題提出（2 月講座第三回必修、3 月講座第四回必修）

第 7 回「平等と優先順位を考える」 ※グループ別演習

第 8 回「他人の作品に意見を言おう」 ※課題提出（第五回必修）

・講座運営概要（昨年度からの変更点を踏まえて）

各回は大学の講義に合わせ、90 分授業で行った。前半で課題に関する説明を行い、後半で課題作成、講義内で書きあがらない課題は、後日提出を受け付けた。提出答案は、講師の指示を受けたスタッフが添削アドバイスをを行い、後日、講義内で返却を行っている。

文章への取り組み方については、大学での論文試験とレポートの双方に配慮し、書く前にメモを取り、構成を組み立てながら書き、そして書き上げた後は自分で答案を見直して修正を施してから提出するように促した（その際、「校正」のような形で余白に修正を書き込むことを推奨した）。今回の課題は手書きであるが、大学で取り組むレポートが容易に修正できるパソコン入力であることが多いため、このような形式を取った。

基本的にはこのような形式で講義を行ったが、第 7 回課題だけは「発表形式」とした。クラスの人数に応じて 5、6 人程度のグループを作り、与えられた課題についてグループ内で議論をして意見をまとめ、代表者がクラスの前で発表した内容に対して、他のグループ、もしくは講師から質問を出して議論を進めた。課題が比較的取り組みやすい内容でもあり、生徒には授業当日に告知していきなり行ったにもかかわらず、他グループへの質問の有無、その指摘の鋭さに関しては個人差があるものの、全グループが与えられた課題についてしっかりと議論し、そして発表まで行った。

先述したように、いきなり書き始めるのではなく、まずはメモを取ることを意識づけるために、初回の講義では「伝え方、考え方の基本」として、ワークシートに取り組むという課題を実施した。内容は、自分が興味・関心のある話題に関して、「客観的知識」と「主

観的意見」の双方を盛り込むこと、「客観的知識」に関しては調べて書いて良いが、それをどのように用いるのかに個々の力量が問われるということを指摘した。

「(論文の前段階としての)小論文」として行った課題は、マナー違反、ニート、食への不安、環境問題、格差のない社会(以上第2回)、情報化社会、小学校の英語教育必修化、高校生のアルバイト、結果がすべて、日本社会の傾向(以上第3回)、一定の長さのある文章の要約(第4回)を踏まえての、若者に必要な能力、ボランティア(以上第5回)等、現代社会の様々な諸問題を課題とし、さらに受講生が自らそれらの課題を選択する形にすることによって、受講生に自主性を意識させるように心がけると同時に、自分が選んだ課題に対する責任も考えさせることで、課題未提出とならないように最大限の配慮をした。これまで同様、選択課題の割合も増やし、生徒に「選択」意識を持たせるように心がけた。

また、後半の課題としては、2月、3月講座ともに入学前スタートアップ教育の一環として行った NPO 法人カタリバのイベントを踏まえ、「大学で学びたいこと」について主に学習内容の観点から考えるように促す課題(第6回)、第7回のグループ演習を経て、最終課題としてこれまでの課題に答えた答案の中から選抜した「優秀作品」に対する評価を行い、今後の自分の取り組みについて決意を示す感想課題(第8回)という形で、全体としては五題の課題を課し、そのうち三題を必修として書くことを受講生に求めた。

課題の提出に関しては、基本的に授業内および当日中の提出を求めたが、講義時間割の関係(時間割は基本的に固定であるため、常に一日の最後の講義となるクラスが存在する)や、生徒の受講状況や進捗状況に合わせ、講義実施日以降の課題提出も認めた。これにより、事情により休んでしまった生徒でも、後から課題を提出することができるとともに、意欲のある生徒は授業外の時間を活用して情報を加えることで、より精度の高い文章を提出することが可能になった。これにより、一部の生徒においては、大学生のレポートと遜色のない内容の課題が提出されることとなった一方で、必修の三題の課題以外にも意欲的に挑戦し、全五題の課題を提出した学生は2月講座で19名、3月講座で12名と、決して多くない人数に留まり、必修とすることによる強制力の意義、および学生の自主性、向上心の欠如と向き合う結果となったことも事実である。

なお、各課題の提出数、提出率については、以下のようになっている。

	受講者数	必修 第一回	選択 第一回	必修 第二回	選択 第二回	必修 第三回	全て出し た学生
2月講座	75名	65名	60名	48名	29名	47名	19名
提出率	—	86.67%	80.00%	64.00%	38.67%	62.67%	25.33%
昨年	—	85.7%	54.1%	73.5%	—	66.3%	39.8%
3月講座	102名	72名	49名	39名	33名	44名	12名
提出率		70.59%	48.04%	38.24%	32.35%	43.14%	11.76%
昨年	—	61.2%	38.8%	58.2%	—	41.8%	23.5%

※未提出者が「欠席」して未提出なのか、「出席」しながら未提出なのかは調査していない。

以下は「講座の報告」ではなく「講師の所感」であるため、「敬体」で記す。

2) 受講生の印象

・受講生の気質に関して

まず特筆すべき点として、聖学院大学においては進路に対して前向きな意欲を持つ学生の割合が、特に推薦入学の生徒に多いといえます。聖学院大学が設置している学部・学科が専門性の高いものであるということもありますが、大学として「質の良い」学生を取るという前向きな姿勢が実りつつあるという、募集における理想的な印象も受けます。

その一方で、「やる気」はあるものの、具体的には何をしたらいいのかわからないという学生も昨年同様、多く見受けられました。たとえば一般入試を経てきた学生であれば、「勉強をこれだけやってきた」という一定の達成感を持ちえますが、受験の早い段階で推薦によって合格してしまった学生は「高校の最後でこれを頑張った」というものがないため、「未来に向けての気持ち」と「何らかの実績」との間に乖離が見られます。

また、これは例年の学生に見られる傾向ですが、学力以前の段階で「自信を失っている生徒」も見受けられました。今回の「大学で学びたいこと」課題では、小中学校でいじめの被害者となったり、病気で長期の入院を余儀なくされたりするなど、必ずしも順調とはいえない道のりを経てきたことを告白する学生もいました。もちろんその一方で、そのような経験を乗り越え、学生生活を前向きに送ることを目標としている学生も存在します。

一般入試での進学組においても、「第3希望の大学(聖学院大学)にやっと合格できました」など、受験勉強でも思うような成果が果たせなかった(俗に言う「不本意入学」である)ことを告白してくれた学生もいました。モチベーションが低い状態で講義を受けても、やはり効果を望むのは難しいため、そのような生徒に対しては何よりも盛り上げる姿勢が最重要課題となります。

聖学院大学に入学してくる生徒は、必ずしも高等学校で好成績を収めていたり、一般入試で第一志望として合格したりした学生ばかりではありません。これは他の大学でも言えることですが、推薦入試というのは多くの大学が単願・専願にしていることもあり、その大学および学部を「第一志望」で入学してくる、いわば非常に意欲の高い生徒が、一般的な偏差値のランキングにかかわりなく存在します。上記のように、聖学院大学においてもそのような生徒は多数おります。また、その一方で同じ推薦入試であっても、「学校の先生が薦めてくれたから」「オープンキャンパスのときのスタッフが優しかったから」など、本来は自分の一生に関わるような重大事であるといっても過言ではないような大学選びを、非常に安易に選択してしまっている受験生がいるのも事実です。

同様に、一般入試で合格してくる学生のなかにも、上記の学生のように、他大学、あるいは聖学院大学の他学部の受験に失敗して入学してきた学生が一定数います。これは、どの大学においても一定数いると思われますが、高等学校在籍時に「目立たなかった」生徒ほど、自分の進路というものと真剣に向き合う機会が少なかったこともあり(成績・課外活動等にある程度目立つものがなければ、なかなか推薦入試での合格に繋がらないため、

このような生徒は最初から推薦入試という手段を選択しない傾向にあります)、大学・学部学科、引いては将来に対して明確なイメージを持たずに入学してきます。

もちろん、そのような生徒は大学生活のなかで、自分の目標を見つけることが多く、また大学とはそのような場でもあるべきですが、ともあれ、入学前というこの段階で、自分の将来に対して非常に高いモチベーションを持っている生徒と、そうではない生徒が教室内に混在しているということは、大いに配慮すべき点であり、それは推薦入試の合格者だから、一般入試の合格者だから、と安易に二分化できない問題であると考えます。

・受講生の文章力に関して

この入学前スタートアップ講座は、レベル然り、入学方法然り、非常に様々なタイプの生徒が受講しております。非常に多彩な入学試験を聖学院大学では展開しており、その受講生の多様さは、偏差値教育で輪切りにされた集団では考えられないほど複雑であり、そして、その多様さは元々様々なレベルに対応していくことが求められる表現力教育においても同様です。

学力的な面で生徒をみると、一般入試などで求められている「偏差値的な学力」では苦戦する生徒がいるかとは思われますが、論文というものは「1. 自分の思っていること」「2. 文章に表わす」という作業であり、1 に関しては受験で求められている一般的な学力とは別の地平で図られるものであって、2 に関しては高等学校等の授業そのもので（以前よりは重視されているとはいえ）体系的に取り組む機会が少ないために、輪切りにした偏差値で聖学院大学を上回る他の大学の新生入生たちとそれほどの差がついていないということは、様々なところで表現力指導を行っている講師の眼から見ても明らかです。

近年の受講生の特徴としては「課題に立ち向かおうとするものの、全く書けないまま固まってしまう」という受講生は減少しており、「何かを伝える」という意志は、多くの受講生から感じられました。昨今の「表現力」に対する教育熱、あるいはそれを感じ取った受講生の意識の高さというものはそこかしこに根付いていると思われます。このことは、先述した「課題の提出率」にも表れているといえます。課題の提出率の数値については様々な解釈があるとは思いますが、学校行事や家庭の事情等で必ずしも全部出席することができる学生ばかりではない状況を考えると、特に 2 月講座の提出率はまずまずの成果が出ているのではないかと講師は考えております。

その一方で、講座に参加しているものの、課題に取り組まない学生というのも、特に 3 月講座を中心に一定数いたことも事実です。これらの学生については、入学前ということ を考慮し、「大学は自分から学ぼうとしない学生の『自由』を認めるところであり、その代償は単位を付与されないという結果として現れる」ということを全体に向けて何度も説明するに留めました。講座に前向きに参加している学生の底上げを図るのか、課題に向き合わない学生を拾いにいくのかは、現場の講師が常に悩むところではありますが、このような問題はすでに入学前の段階から見られるということが明らかとなりました。

文章表現そのものについてですが、高等学校における「文章力」指導が、いわゆる「作

文」になってしまっている学校も多いように見受けられ、自分が自信をもって書いている文章が、主観的な感情を羅列しているもの、偏向的な意見を繰り返しているものなど、論文が求める「客観性」とはかけ離れた内容になっている答案が増加していることはここ数年指摘し続けておりますが、今年度もそのような答案は数多くみられました。

自分の文章を客観視する能力というものが身に付いていない答案の具体例としては、「課題文の要約が出来ていない」「自分の思っだけを繰り返してしまい、結果的に内容が破綻してしまう」「一方的な意見だけを述べてしまい、文章が攻撃的とも取れる」というようなものです。そして、残念ながらこのような学生は例年増加傾向にあります。

「表現力」というものは、ただ自分の考えだけを一方的に述べるものではなく、その状況に応じて適切な手段を取るべきものであるはずです。このことは、ワークシート課題として実施した講において、欄外までびっしり箇条書きを書いている生徒がいる一方で、それぞれの枠に一言ずつしか記載しない生徒も多数いることでも証明されました。この原因は、文章を書くこと（自分の想いを伝えること）を「面倒くさい」と思って思考停止していることが最も大きいと思いますが、ある程度の説明で相手に伝わると誤解している生徒がいるのも要因の一つであると考えます。このような自分と他者との認識の違いに配慮できない「説明不足」を解消することが、文章力上達の第一歩であり、それはそのまま他者とのコミュニケーション力の向上につながっていくと考えます。

それに加え、いわゆる「話し言葉で書かれている文章」や「一文の構造が破綻している文章」の割合が、ここ数年どんどん増えているということも事実です。これは今年も答案にも数多く見受けられました。それはすなわち、高等学校で文章を書かせる経験を積ませていたとしても、それはあくまでも「感想」や「作文」でしかなく、客観的な文体で文章を組み立てる「小論文」のトレーニングをしてきた生徒が少なくなっていることを表しているように感じられます。

これらの点については、先述した「表現力のトレーニング」や、講座で取り組んだ答案の「話し言葉」や「文構造の破綻」についての赤字訂正はもちろん、「客観的な文章」というものの表現形式がどのようなものであるかを視覚的に理解させるとともに、意見に関しても自分の主張だけを述べるのではなく、自分とは違う意見を持つ相手や、読み手を意識することの大切さ、そして自分の意見のほかにも、複数の選択肢があるという視野の広さを身につけることの必要性について、講義のなかで学生が実感できるようにしております。

その結果として、自分が取り組んだ課題について、他の受講生の文章を読み、感想を書くという最終課題において、良いところを認め、自分のなかに取り込んでいこうとする成長を見せた受講生が多数見受けられました。

また、問題点に関するアドバイスを受けて書き直した文章の多くは見事に修正され、非常に客観的な構成を用いることができるようになっており、受講生の良い意味での「素直さ」というものにも多数触れることができました。

この入学前スタートアップ講座は、単なるリメディアル教育ではなく、従来の入試ではあまり重視されなかった、しかし大学および社会において必ず求められる問題を、分かり

易い形で生徒に提供することを主眼においております。そういう意味では、この講座に前向きに取り組んだ受講生であればあるほど、大学入学後に「自分」という存在を確立させて大きく飛躍できる可能性が生じることを大いに期待して、講師は講義を運営しております。

3) 生徒の優秀答案例(選択必修課題 ニート / 提出任意課題 高校生のアルバイト)
課題2「ニート」(原因追求型)

最近、学校にも行かず、働いてもいないし、家事や職業訓練もしていない若者が問題となっている。このようなニート(NEET)と呼ばれる15歳から34歳の人たちが増加していることについて、あなたの考えを600字程度で書きなさい。

《3月講座》 日本文化学科 女子

現在では、本来は学生や社会人をしていてもおかしくない年齢であるにもかかわらず、学校や会社に行かず、就職するための活動をするわけでもなく、ただ家にいるだけで何もしないニートと呼ばれる若者が増加してきていることが問題となっている。ニートになってしまう理由はいくつか挙げることができる。1つめは、本人の甘えである。学校に行かないのも、働かないのも、それらが本人にとって辛くて嫌なことであるために、彼らはそれらを自分から遠ざけようとしてしまうのだ。そして2つめは、学校や会社を自分から遠ざけようとする周りの環境だ。学校や会社が嫌になるのは何らかの原因があり、そのせいでニートになってしまうのだろう。たとえば、仕事内容や人間関係だ。後者では、友達や、同僚や上司などと上手くつきあえず、ニートになって嫌なことから身を守るのである。

これらを解決、改善していくのはとても難しい問題であるが、まず、本人の気持ちを变えることが大切だ。先ほど述べたように、ニートの原因は甘えからくるものなので、本人たちの甘えの部分を取り除かねばならない。同じ学校や会社で、同じように辛く苦しい思いをしながらも頑張っている人もたくさんいるのだから、自分ばかりが現実から逃げてはいけないのだという気持ちをもっていく必要がある。そして次に、周りから変わることである。本人が甘えを取り除くのは時間がかかるものだが、ニートが上手くやっていたりするような環境をつくることも大切である。あからさまに態度を変えるのも本人にとっては逆に傷つく可能性があるので、やわらかい雰囲気でも本人に優しく接することが大切だ。

以上のことを実行し、あたたかい職場や学校にすることで、ニートも少しずつそれぞれの環境になじむことができ、ニートの数も少しずつではあるが、減っていくのではないかと

課題8「高校生のアルバイト」(賛否型)

高校生がアルバイトをすることについて賛成か反対か、利点と問題点の双方に言及しながら、あなたの考えを700字程度で書きなさい。

《2月講座》 日本文化学科 女子

私は高校生がアルバイトをすることについて賛成だ。それは、アルバイトをすることに

よって高校生活で得られない経験を身につけられ、働くことの大切さを理解できると考えるからだ。

たしかに、アルバイトをするのは高校を卒業してからのほうが良いという意見もある。その理由として、学業との両立ができるのか、高校時代にしかできないことを優先すべき、アルバイトに限らずボランティアや地域の活動等でも社会性は身につけられるなどが挙げられる。しかし、学業との両立という点は大学生になってからも変わらないのではないだろうか。高校時代に両立できなかったことが、大学生になったら急にできるようになるとは考え難い。また、ボランティアでも社会性は身につくかもしれないが、無給の奉仕活動と給料が出るアルバイトでは本質的に違うものがあるのではないかと。高校生活の中でしかできない部活動や委員会活動も重要で、それで手一杯なら無理にアルバイトをする必要はないが、余裕があるのであればアルバイトをして多くの経験を重ねるほうが良いだろう。

アルバイトでお金を自分で稼ぐことによって、お金の大切さ、自分を養ってくれている親の苦労というのを少しは理解できるようになるのではないかと。ということが、高校生がアルバイトをすることに賛成する一番の大きい理由だ。何事においても理解するのは遅いよりも早い段階のほうが良い。そのため、アルバイトは高校で禁止されていなければ、高校生の時から始めるべきである。

《2月講座》 政治経済学科 男子

私は、高校生がアルバイトをすることには反対である。なぜなら、アルバイトをすることにより、寝る時間が遅くなり、学校の授業中に眠くなって寝てしまうということが起こるからである。

もちろん、高校生の時からアルバイトをすることによって、早い段階から経済感覚が身につく、様々な人と接することで礼儀や人との上下関係などがわかって社会勉強ができる。また、自分でお金を稼ぐので、親が子にお小遣いを渡すこともなくなり、親も喜ぶという良い面もある。しかし、経済感覚を身につけたり、社会勉強をしたりすることは、アルバイト以外でもできる。たとえば、経済感覚を身につけたいのであれば、貯金箱などを用意して、もらったお小遣いのなかで今月は何円まで使えるということを決めて、使わない分を貯金して使えないようにする。貯金をしなかったお金を元にして買い物などをすれば、これは高い、これは安いという経済感覚が身につくはずである。また、礼儀や上下関係は、ボランティアや部活動、地域の行事などに積極的に参加すれば、自然と身につくのである。

高校生の本業は勉強することなので、もしアルバイトをするのであれば、学校が休みの時にするのが良いだろう。アルバイトが原因で授業中に眠くなって寝てしまうと、学業に影響するので、高校生がアルバイトをすることに反対だ。

小論文実作・添削例

ここでは、第2回課題「ニート」と第3回課題「情報コミュニケーション」を例に掲載をする。
原稿用紙の右の欄が添削欄。右下のローマ字が評価となっている。

(1) 第2回課題「ニート」

■欧米文化・A.O・足利南・女

聖学院大学小論文 原稿用紙

教科名	国語	学部名	人文 学部	クラス	Aクラス
第[2]講	学科名	欧米文化 学科	氏名	[redacted]	

タイトル ニート

○最近、学校にも行かず、働く暇もないという人たちが15歳から34歳のニートで呼ばれる人たちが増加している。

○ニートで呼ばれる人たちが増えてくるのは、日本の経済が関係していると思う。現在の日本の経済は回復してきている。でも大企業しか良くなくて、中小企業はダメ。また、景気が悪くなり、会社経営が厳しくなり、リストアップで会社をたたむニートになる人も増える。例えば自分自身が学校へ行きたいと思っても、家の経済事情を理由に行けず、若者も多いと思う。

○これらのことを解決するには、国全体で今まで以上に考え、減少するように取り組まなければならない。今、仕事を探そうとしても見つからず、辞めてしまう人も多いため、10代という年齢の人たちには、少しでも高校に行けるよう支援をしたほうがいいと思う。支援を受けられる基準も見直す必要がある。経済という面から見ると、少しでも早く景気が回復するように国が取り組む必要があるだろう。大企業だけでなく、景気回復のいい影響を受けるのはなく、中小企業にもいい影響が出れば、少しでも全国的に良くなると思う。

○10代や20代でこれからという人たちの将来が暗くなっているように思える。1人1人から考えて、少しでも景気が回復し、学校に行けたり、働けるようになるように自分でもできることを思いつけて行動していきたい。

メモ
構成
しっかり、4段落で
現状・背景・提案・結論
まとめられていて GOOD!!
「思う」という表現は、
「考える」という表現にしよう!!
客観的に考え、断言できる
ことは、「だ、である」って
言い切ったOK
提案
どうやって取り組みが
あったらいいの?
提案を複数挙げて、
説得力が増す!!
結論
確かに、
1人1人の意識で
大切だね!!!
自分には、
何が出来るかな!!
(w)

◎コメント
小論文、おつかれさま!!
とてもしっかり書いていて、
読者に伝わる小論文
でした!! 文章数もちゃんと
良く、Good!! 具体例に
ついて、次回もがんばろう!!

評価 **A B C D**
Good

ポイント!!
メモ
xモモ取りは、書きと、自分の中で
整理できたり、ゆとり具体的は例を
複数考えられるよ
背景・提案は具体例が複数あるほど、
説得力が増します!!

次回の
ファイト!!!

(2) 第3回課題「情報コミュニケーション」

■ 人間福祉・推薦・玉川聖学院高等部・女

聖学院大学小論文 原稿用紙

教科名	国語	学部名	人間福祉 学部	クラス	A
第[6]講	学科名	人間福祉 学科	氏名	[redacted]	

タイトル 「情報コミュニケーション」

○近代社会はインターネットの電子メールや携帯電話などの情報技術を利用したコミュニケーションが普及してきている。

○情報技術を利用したコミュニケーションでLINEやFacebook、Twitterなどがあり、世界中の人とどこにいても繋がることもでき、また、自分の都合に合わせた連絡をとることもできる。また、こうした情報コミュニケーションは、インターネットや携帯電話で仕事を済ませられることもでき、余計な手間や時間を無くすることができる。

○しかし、こうした便利な情報コミュニケーションは、歩調を揃えれば大変なことが起きる。LINEやFacebook、Twitterなどで知らない人とコミュニケーションにより、個人情報の流出や、人物が危機だと知らずに出会った場合もある。また、すぐに連絡をとれることにより、インターネットや携帯電話に依存し、返事がすぐに来ないだけでイジメが起きるなどのケースがある。

○ではどのようにして情報コミュニケーションと上手に付き合っていくべきだろうか。まず、個人情報流出や知らない人と出会ったために、事前にその情報コミュニケーションサイトは安全なのかを調べたり、利用している人の意見を聞いたり、知らない人とは実際に会わないことが大切である。また、依存などイジメ人と繋がらないよう、利用する時間を決めるなどの工夫と、達成感や、場合によっては、情報コミュニケーションサイトを利用する時は保護者に伝えておくべきである。

○今後もより良い情報コミュニケーションと付き合っていくには、インターネットや携帯電話の使用方法も見直し、良い社会へと繋がるよう気を付けていくべきだ。

確かに!
使い方1つで良い物にも悪い物になりますよね。

Memo
世界中の人とつながれる
→危機は人にも味ない
すぐに連絡がとれる
→依存しやすくなる
→返事をいふにそでイジメなどにつながる
TwitterやPCでのコミュニケーションで
あまされる
→直接のコミュニケーションが低下
→話し合いが合わない
good!!
メリットとデメリットが
複数挙げられていて、
素晴らしいです!
また、挙げられたメリットと
デメリットが対応している
ので、説得力があります。
提案の具体例も
複数あり、分かりやすく
very goodです!!

◎コメント
文章がきちんとまとまっていて、分かりやすいです!
この調子で頑張れば
いい!! (w w)
次も楽しみにしています!

評価 **A B C D**
Good

参 考 資 料

楽しく英語講座報告

掲載記事

English Time 2014

Mehran Sabet

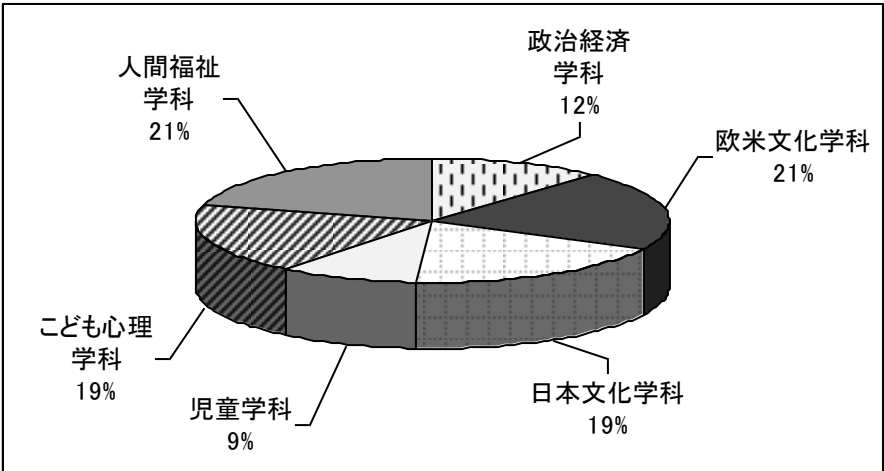
Entering university is a big change for some students. Everything is new and it takes time to adjust. That is why attending the recommended student classes is very helpful. Students can make new friends, get used to the new environment, and become familiar with the types of lectures at university. English Time classes focus on all these points.

This year classes were divided into higher and lower levels with the goal of providing students with the most appropriate types of teaching materials and communicative activities. Students were able to interact with their classmates without concern about their English ability. In every class, students did some kind of pair or group work activity and this enabled them to make new friends. The main point of activities was to use simple English while exchanging information with classmates. Everything was done in a pleasant and fun way.

Seigakuin University students who had studied abroad came to the class and talked about their experience overseas. They talked about school life, culture, food, homestay, internship and many other topics while in American or Australia.

Although some students were shy and quiet on the first day of classes, by the end of the session most of them had made many friends and looked cheerful and happy. During the entrance ceremony and department guidance on April 1st, it was easy to recognize students who had attended the recommended students' classes. These students already had friends, looked more relaxed, and felt at home. It was nice to see new students feeling confident and excited on the university campus.

楽しく英語講座 English Time 受講者数 43名
学科別受講者数グラフ



楽しく英語講座 English Time

講師：メヘラン・サベット／ K. O. アンダスン

1. 講義概要

このクラスは、高校で学んだ基礎英語をさらにステップアップし、実際の日常生活の英語を実践します。また、4月から聖学院大学で勉強をする英語のクラスに慣れ親しむことを目的とし、講座では、サンプル・レッスンをもとに、アクティビティーを取り入れて、課題に取り組みます。

1日目：クラスメイトを知ろう！コミュニケーション方法

Session 1: Get to know everyone better. Communication strategies

2日目：「サバイバル英語」海外旅行で必要最低限の英語を学ぶ

Session 2: Survival English. Survival skills while traveling abroad

3日目：「English through Songs」英語でアーティストや歌について学ぶ

Session 3: English through Songs. Learn about artists and songs using English

4日目：「英語で楽しく」楽しいアクティビティーで、英語を上達させる

Session 4: Fun with English. Improve your English through fun activities

5日目：「自然にコミュニケーション」友達やクラスメイトと英語を楽しく話す

Session 5: Communicate naturally: Enjoy speaking English with friends and classmates

2. 講義スケジュール

Day 1： 2月24日（月）

時限	時間
オリエンテーション	9:45～10:00
1時限	10:00～11:00
2時限	11:10～12:10

Day 2： 2月25日（火）

時限	時間
1時限	10:00～11:00
2時限	11:10～12:10

Day 3： 2月26日（水）

時限	時間
1時限	10:00～11:00
2時限	11:10～12:10

Day 4： 2月27日（木）

時限	時間
1時限	10:00～11:00
2時限	11:10～12:10

Day 5： 2月28日（金）

時限	時間
1時限	10:00～11:00
2時限	11:10～12:10
閉講式	12:10～12:30

※欧米文化学科の在学生5人が日替わりで学生スタッフとして参加。

英語でのアクティビティーで受講生をサポートするなど、講義の補佐を行った。

※講座は2クラスに分かれて行われた。クラス分けは、英語資格試験取得レベル、海外への興味などをアンケート調査した結果から割り振った。

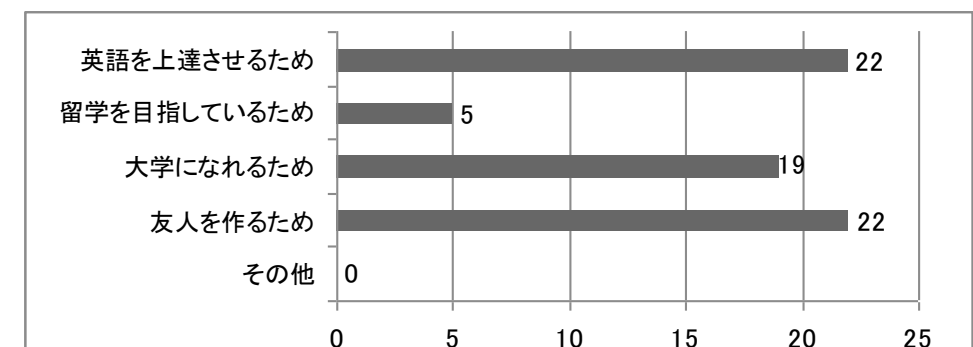
アンケート結果（楽しく英語講座 English Time）

楽しく英語講座（English Time）最終日に、受講生に記入してもらったアンケートより集計。（グラフ内数字は人数を表す）

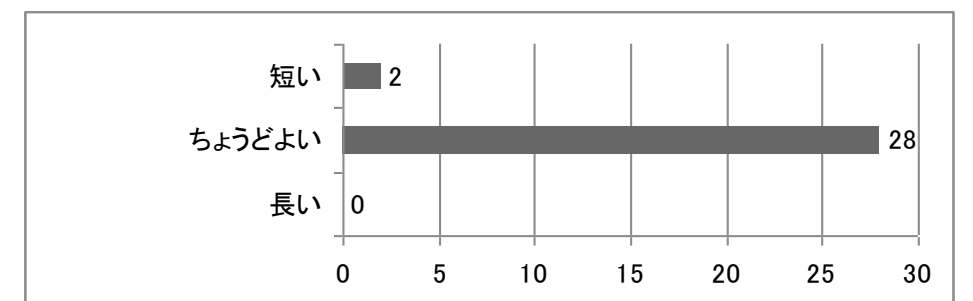
回答率

回答数	英語集中講座A 受講者数	回答率
30人	43人	70%

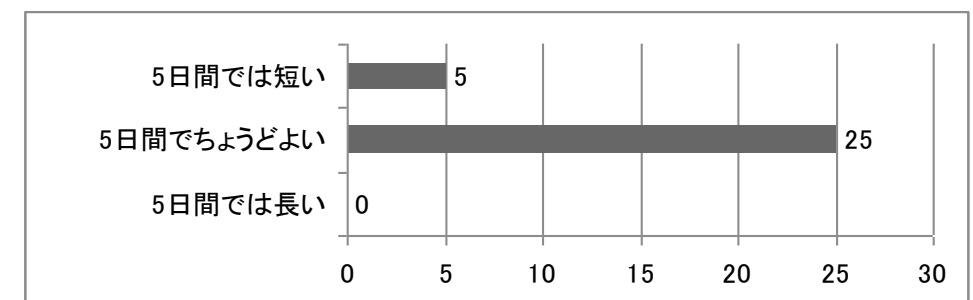
1. 楽しく英語講座を受講した理由は何ですか？（複数回答可）



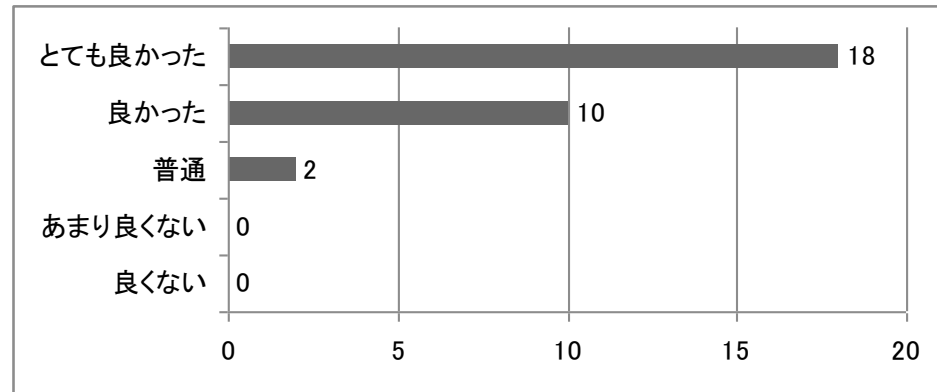
2. 授業時間はどうでしたか？



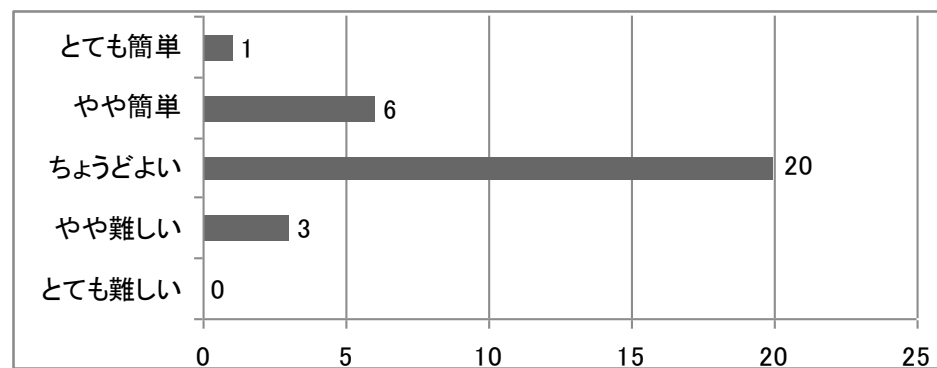
3. 講座期間はどうでしたか？



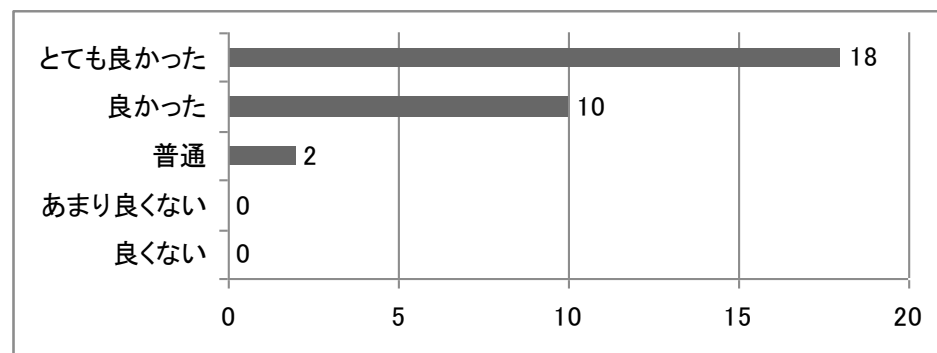
4. 授業内容はどうでしたか？



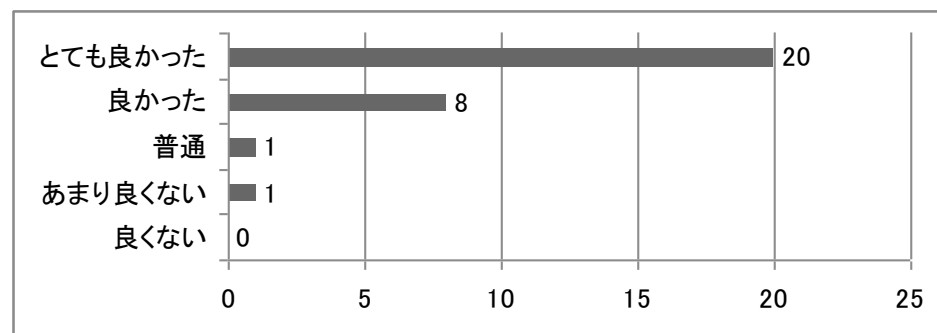
5. 授業のレベルはどうでしたか？



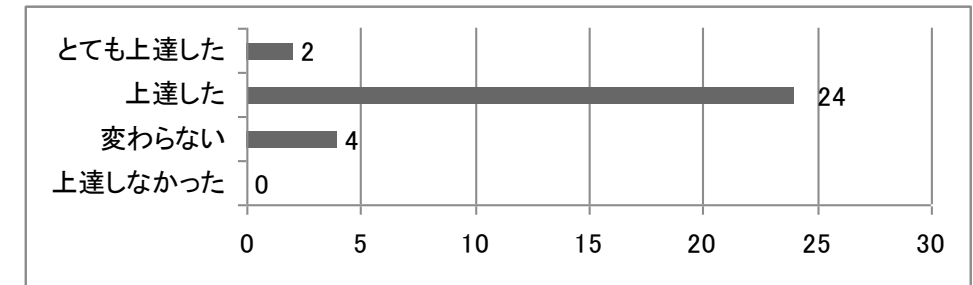
6. 講師の教え方はどうでしたか？



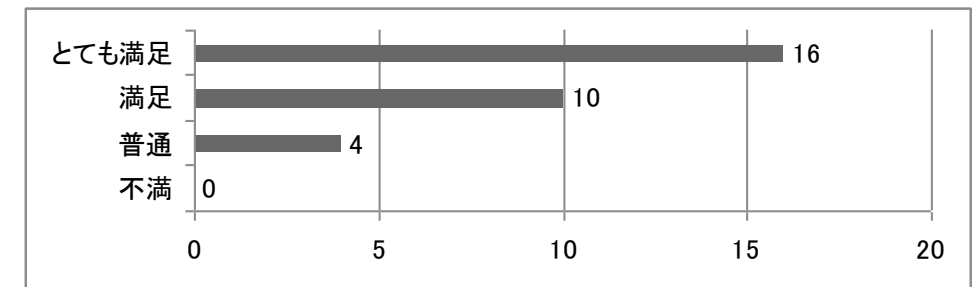
7. 学生スタッフはどうでしたか？



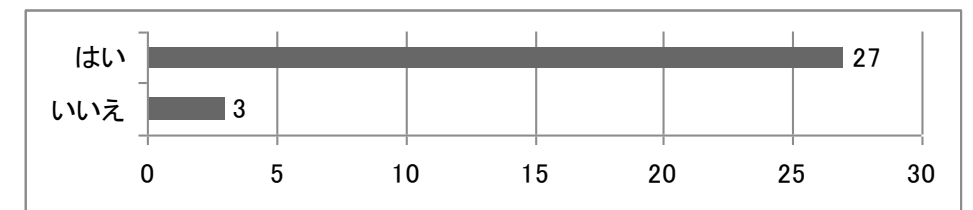
8. 英語力は上達しましたか？



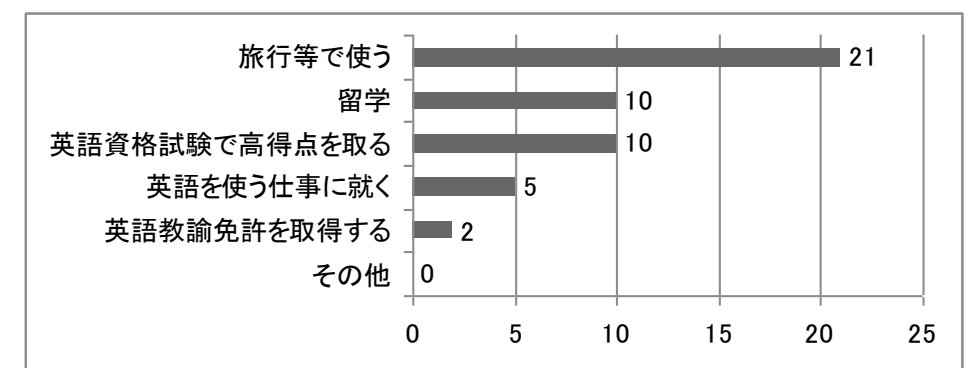
9. 講座は全体を通してどうでしたか？



10. 英語を勉強する意欲は増しましたか？



11. 入学後、英語を使ってどうしたいですか？（複数回答可）



受講生の感想

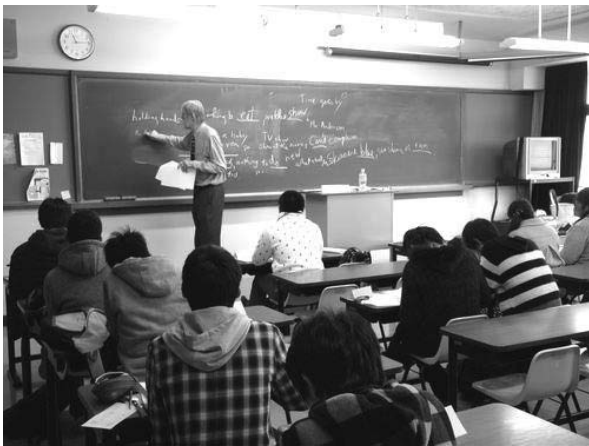
- ・ 友達をいっぱい作れて、いろんな人と話せ、講座も堅苦しくなくとても楽しかったの参加できて良かったです。
- ・ コミュニケーションがとれて、とても楽しかったです。友達ともたくさん話せて充実した5日間でした。
- ・ 学生スタッフの話を聞いて留学に興味がわきました。入学したら留学してみたいです。そのためにしっかり勉強していこうと思います。
- ・ 楽しく英語講座を受けて、好きだった英語がさらに好きになりました。
- ・ 大学生活が不安だったけれど、今回の講座を受けて少し不安がなくなりました。
- ・ 英語が少しわかるようになりました。緊迫感のある授業だと思っていたら、全然違いました。とても楽しかったです。



講師と受講生によるアクティビティの様子



パートナーと会話の練習



楽しく英語講座 授業風景

●特集 入学前教育の最前線

ですが、作れない受講生もいるので、学生スタッフが見てあげて、仲間づくりを手伝うことも大事になる」(山下氏)

学生スタッフの平野さんは、「初日と2日目の雰囲気から受講生同士の相性を見て、グループを決めた」と明かす。

そんな裏方の努力もあって、今年のクラスは、カタリバを境に雰囲気 が ぱらっと変わったという。清水さんは言う。

「はじめての大学なので、みんな最初は不安でやって来います。何をしたいのかわからないので、ただ座っていたり、テキストを読んでいたりと、スマートフォンをいじっていたり、最初はそんな感じでした。でも、カタリバのときにお互い話をしてみても、不安がなくなっていきました。クラスも賑やかになりました」

「仲間作り」の3つ目の仕組みで、総仕上げといえるのが、最終日に行われるプレゼンテーションだ。それぞれの学生が、自己紹介、地元紹介、そしてカタリバで話し合った「かっこいい大学生とは？」などのテーマ

について、OHPを使って3分ほどの発表を行う。

「最初にプレゼンがあったらハードルが高かった」と感じた清水さんも、仲間作りが深まった終盤にあったから楽しく取り組むことができたという。

入学前教育の受講者が大学の核になる

「いまの学生たちは、表面的には友達なんだけど、意外と深いつきあいがない。表面的には会話もするけど、友達だと思っていないことがある」と山下氏と見ている。

入学前教育は、そんな今どきの学生たちの心を開いて、打ち解けた人間関係を築くのに大きく役立っている。

清水さんは、「入学前は不安がすごく大きかったけど、11日間で友達もできたし、大丈夫という気持ちになり、早く入学式がこないかな、という気持ちが出てきた」と振り返る。

学生スタッフの平野さんも、受講生たちの変化を感じた。「はじめは点呼を取っていて

も、いるのかいないのか、わからないような受講生が多かったんですが、11日間たつと、向こうから話しかけてくるようになって距離も近くなりました」

課題があるとすれば、前述のように、参加していない学生がいることだろう。理想は全員参加だが、強制参加にすればモチベーションが下がる。だから、「受講者が核になって大学全体のムードをつくる」(山下氏)という発想を大事にしている。

入学前準備教育は、学部・学科の枠を外してクラスを編成しているの、他学科に親友ができる学生が多く、その関係は4年間続く。学科を越えた「ヨコの関係」が生まれ、さらに在学生と新入生との「ナナメの関係」も生まれる。

「こうした関係がキャンパスの雰囲気づくりに大事。小さな大学ならではの、全体が融合して、ひとつのキャンパスとなっている効果がある」と山下氏は感じている。

ただ、入学前教育が万能なのではない。あくまで「10ある方

図表 4 仲間作りを意識した入学前教育を行う大学

日本薬科大学	入学予定者全員を対象にスクーリングを行う。グループエンカウンターでは、コミュニケーション能力の育成や、仲間づくりをめざす。
松本大学	全入学者を対象に3部構成の入学前教育を実施。最初の集中セミナーでは、グループワークを通して友人関係を築く効果が生まれている。
九州工業大学	情報工学部では推薦入試合格者全員を対象に、入学前合宿を実施。学力補強のほか、人間関係を築くことを目的とする。
長崎大学	AO入試に合格した希望者に、入学前教育として合宿を実施。入学予定者や学生チューターとの友人関係を築くことができる。
熊本県立大学	推薦入試合格者を対象に、全学部・学科で入学前学習支援プログラムを実施。総合管理学部ではグループワークなどを行う。

●特集 入学前教育の最前線

図表 1 試験別受講者数・実受講者数・受講率

	英数国			英語集中			実受講者数	受講対象者数	受講率
	2月	3月	小計	A	B	小計			
推薦	55	41	96	19	1	20	100	183	54.6%
AO講義	39	33	72	8	4	12	77	154	50.0%
AOレポート	4	6	10	3	1	4	10	15	66.7%
一般		17	17				0	17	21.8%
その他	1	2	3	0	1	1	3	8	37.5%
計	99	99	198	30	7	37	207	438	47.3%
2012年	115	84	199	66	4	70	226	468	48.3%

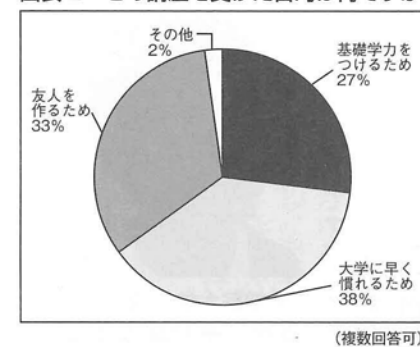
※その他は、自己推薦、AO英語特別入試など

いると思います。それが周りに伝播して、クラスの雰囲気が悪くなるかもしれません。自主的に受講するからこそ意味があるのかな、と思います」

実際の受講者の割合は、入学前英語集中講座も含めて5割ほどで、ほぼ同大の期待通りの数値となっている(図表1)。

あえて単位化していないこともポイントだ。単位化するとすると、大学が定めた規定の要件を満たさなければならぬので、プログラムの自由度がなくなる。「毎年いろいろなトライアルが

図表 2 この講座を受けた目的は何ですか



できるのは、単位化しないから」と、山下氏は明かす。

清水さんも、「単位に関係ないので、リラックスして臨むことができた」と話しており、学生からも好評だ。

11日間の講座では、大学の授業時間に慣れるため、毎日90分の授業を3コマ行う。国語・数学・英語の3教科で、毎年この講座を担当している予備校の講師が指導にあたる。

かといって予備校のような授業ではない。「黒板をたたいて、こは覚えるんだ、という授業ではありません。高校までの詰め込み学習から、大学での自主的・意欲的な学びへの転換を知ってもらうことに主眼を置いて

「います」(山下氏)

今の学生に見る
仲間作りの重要性

聖学院大学の入学者は、高校のクラスの中では、中位から下位にかけてのグループにあたる。山下氏は、このグループに大きな可能性を見出している。

「日をあててあげることで、意外と伸びていく生徒たちなんです。高校まではさえないかった自分が、大学生になって輝くことができた、という話をよく聞きます。まさに『大学デビュー』が起きています」

その大学デビューに向けたリスタートを切る場、それが入学前準備教育というわけだ。

そのリスタートのために重要な要素となるのが「仲間作り」だという。山下氏は話す。

「これは2、3年やっていううちにわかってきたことなんです。が、今の学生たちは、友達ができないことで悩むことがあります。これは我々の世代には衝撃でしたが、今の学生にとって一番大事なことは、仲間を作って

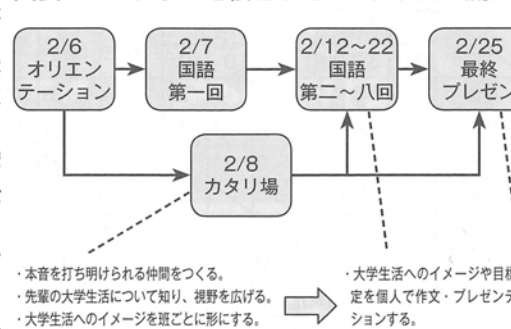
在學生との
ナナメの関係を築く

同大が入学前準備教育の中に取り入れた仲間作りの仕組みは、大きく3つある。

1つは、4年目より導入した学生スタッフの存在だ。

「当初は他大学の優秀な学生を入れていましたが、彼らでは

図表 3 カタリバを核としたプログラムの流れ



・本書を打ち明けられる仲間をつくる。
・先輩の大学生活について知り、視野を広げる。
・大学生活へのイメージを踏まえて、目標設定を個人で作文・プレゼンテーションする。

本学の学生の気質がわかりません。そこで、在学生に入ってもらうことにしました。教職課程を取っている学生の訓練にもなります」(山下氏)

人文学部日本文化学科3年・平野雄太さんは、高校教員を目指しており、「現役の高校生とふれあって、将来に役立てたい」と学生スタッフを務めた。

学生スタッフが活躍するのは、国語の小論文の添削のほか、受講者一人ひとりの面談だ。

昼休みの時間を利用して行われる面談では、アンケートの記入内容にそって、入学後の過



聖学院大学 人文学部
3年 平野雄太さん

し方や進路についてアドバイスする。学生スタッフが対応することで、より打ち解けた雰囲気

「どんな生徒もそうですが、高校時代、実は先生にあまり自分の話を聞いてもらっていない。そこを、複数の学生スタッフが対応することによって、個別の時間を増やしています。また、1人の先生が30人の生徒を面談したら、合う生徒、合わない生徒がいるのは仕方ないですが、ここでは、多くのスタッフの中から受講者と気の合う者が対応できます。そこで意外と解決策が見つかるものです」(山下氏)

コミュニケーションを図る工夫もある。平野さんは話す。

「ただ面談をやるだけではつまらないので、スタッフそれぞれが個性的な面談を行っています



聖学院大学 人間福祉学部
1年 清水沙織さん

す。僕はカードを引いてもらい、『無人島に1つだけ持って行くなら何がいい?』などの異風問題に答えてもらうことで、会話を盛り上げました」

例年、途中で離脱する人が数人いるというが、いかにコミュニケーションを図るかは、離脱者を減らすためにも大事な。親や先生との関係が「タテの関係」だとすると、少し年上の学生との関係は「ナナメの関係」といわれる。昨今、サークルや部活動で先輩・後輩の関係を築く機会が減っているといわれているが、入学前に「ナナメの関係」が築かれる意味は大きい。清水さんは言う。

「もし学生スタッフがいなかったら、授業には慣れたと思いますが、学校生活という部分では不安が残ったと思います。

新入生だけでは、わからないことは、わからないままになってしまいがちですが、解決策を聞ける人がいるというのは、安心につながりました」

スタッフ主導で
仲間作りをサポートする

「仲間作り」の仕組み2つ目は、3日目に終わるスペシャル・プログラムだ。

毎年、楽しみながらコミュニケーションを図るプログラムが用意されているが、今年は、特別非営利活動法人カタリバが行うキャリア学習プログラム「カタリバ」を実施した。

どのようなプログラムかというと、カタリバのキャストと呼ばれる学生スタッフと受講生が、「かっこいい大学生とは?」をテーマにグループで話し合い、最終的に発表を行うというものだ。このグループワークを通して、仲間作りが大きく前進する(図表3)。

ここでも学生スタッフの存在は大きい。「場を与えてあげて、自分たちで友達を作ればいいん

特集

入学前教育の役割に変化 仲間作りで、学生の不安解消へ

——入学前教育の最前線

学力補強を目的とした入学前教育がすっかり定着したが、ここに来て変化の兆しが現れている。「友達ができるか」という、今どきの学生ならではの不安に対応したプログラム作りを意識する大学が出てきているのだ。聖学院大学（埼玉・上尾市）の取り組みから、入学前教育の最前線を追う。

大学全入時代の問題を 先取りして対応

聖学院大学は、政治経済・人文・人間福祉の3学部体制で、小規模大学ならではの強みを生かし、少人数教育を徹底する。マスコミ各社の調査では、「面倒見のよい大学」として上位にランクしている。2014年4月には、姜尚中教授が学長に就任することでも話題だ。

同大での入学前準備教育の導入は早かった。2001年、AO入試導入に際し、入学者の基礎学力を保障する仕組みとして用意された。同大学広報局長・山下研一氏は当時を振り返る。

「センター試験を導入せず、選抜より生徒の可能性を見る入試を行っていた本学では、大学で学んでいく上で必要となる、学習意欲・学習時間・基礎学力の3本柱の部分で問題を抱えた学生が多くなっていました」

それはつまり、「大学全入時代に多くの大学で起きるであろう問題に先取りして直面していた」と山下氏は話す。実際、大

学全入時代が始まったのは、2007年頃。それから大学生の学力不足問題が広く認識されたのは、周知の通りだ。

対策として、いち早く入学前教育に踏み切ったが、当時は高校側の反発も強かったという。しかしいまや「なぜ合格者を半年も遊ばせておくのか、という逆転の議論が起きている」（山下氏）

なぜ「入学前」だったかという点、「学生にとって、大学に入ることは大きな冒険で、期待と不安を胸にやって来る。緊張感のある入学前は、何かを伝えるには絶好のチャンスだから」と山下氏は説明する。

自由参加だから 学習意欲が高まる

聖学院大学の入学前準備教育は、2月講座と3月講座の2回の機会を設けている（2013年は2月講座3クラス、3月講座2クラス）。3月講座は一般入試合格者も受講できる。受講料は2万円。受講期間は11日間と長く、通学制としている点も

大きな特色だ（ただし、希望者は通信教育も可能）。



聖学院大学 広報局長
山下研一氏

同大が通学制にこだわった理由は、学習意欲と学習習慣を身につけさせるには、対面授業が欠かせないと考えたためだ。地方の学生は通学できないデメリットはあるが、早めに下宿を始めて通う学生もいるという。受講を強制とせず、自由参加としている点も重要である。

「学習意欲を問題にしている以上、強制にはできない。もし強制にしてしまったら、そこでモチベーションが下がってしまいます」（山下氏）

今年の受講生の人間福祉学部人間福祉学科1年・清水沙織さんは、受講者が作る雰囲気の影響すると感じている。

「全員強制となると、おそろくやる気なくなってくる人も